

平成 25 年 度

研 究 紀 要

(通卷第 3 1 号)



川 越 市 教 育 委 員 会

情報教育推進委員会

I 研究の概要

1 目的

全市立小・中学校における情報教育の一層の推進を目指し、児童生徒の学力向上や情報活用能力の育成を図ることを目的とし、教育の情報化についての現在の課題解決に向けた実践研究を行う。

2 研究テーマ

「授業における ICT 活用指導力の向上」

3 研究方針

教職員の授業での積極的な活用を図るため、授業研究を通して効果的な活用について考察するとともに、ICT機器の設定・操作方法等をわかりやすくまとめたマニュアルを作成する。

4 研究内容

○授業研究部

ICT機器（電子黒板 Mimio、プロジェクタ、実物投影機）やデジタル教科書を活用し、情報活用能力を高める授業研究を行う。

○活用促進部

授業でのICT機器の操作方法等をマニュアルにまとめ、グループウェア内で公開し、広く活用を促す。

5 研究の経過

- ・第1回 9月4日(水) 15:30～16:30
委嘱書交付、川越市情報教育の現状と課題、今年度の方針、今後の予定
電子黒板・プロジェクタ・実物投影機・デジタル教科書の活用について
公開授業・授業者の決定
- ・第2回 10月22日(火) 15:15～16:30
授業研究会の指導案検討、役割分担
授業で活用しやすい、わかりやすいマニュアル
- ・第3回 11月6日(水)
指導案再修正、今後の予定の確認
マニュアル資料の検討、配布媒体について
- ・第4回 12月3日(火) 授業研究会
川越市立福原小学校
第6学年 社会科「新しい日本、平和な日本へ」
授業者 佐藤 穰 教諭
指導者 川越市立霞ヶ関小学校 山田直樹 校長
参会者 29名
- ・第5回 1月17日(金) 15:15～16:30
各部のまとめ、今年度の成果と課題、研究紀要原稿の確認

II 研究の内容

【 授業研究部 】

1 「授業研究会 研究協議会」

～授業におけるICT機器の効果的な活用について～

(1) 授業者のこれまでの取組と本時の振り返り

- 児童が発表をする時に、実物投影機を活用するようになった。実物投影機の使い方については、4月当初から指導し、児童全員が抵抗なく自然に使うことができる。また、発表する時は、実物投影機でノートを映し、前を向いて発表することや注目してほしいところを指し示しながら発表することを指導してきた。ノートを置く位置には目印テープを貼り、わかりやすくした。
- 実物投影機を活用することによって聞き手を意識したノートまとめをするようになったり、文字を丁寧に書いたりするようになった。
- プロジェクタによって黒板に拡大提示された資料は、児童が話し合いや考えを交流する時にも効果的であった。
- 実物投影機の画像保存機能を使い、手軽にフラッシュカードを作成し、活用した。
- 実物投影機を使い、ストップウォッチの画面を拡大提示し、話し合いをする時間の目安がわかるように工夫した。
- 電子黒板 Mimio の利点は、ブラインド機能などを活用することによって資料提示をより効果的にできる点とコンピュータを閉じて、ペンを使って画面タッチにより操作をすることができる点である。
- コンピュータ当番がICT機器の準備・片付けを教師と共にやる姿を提案することができた。

(2) 質疑・応答

- プロジェクタを活用するときは、光に対する対策が必要である。光が入ってしまうときは、どのような対策があるか。
 - 光が入ってしまうときは、電気を消し暗幕を引くようにしているが、やはり限界がある。

(3) 全体協議

- 社会科だけでなく、他教科でも普段からICT機器を活用している学級だったので、児童も使い方に慣れていて、発表の場面でも話し合われた意見



をまとめたノートを拡大提示し、ピント調整など児童自身で実物投影機を操作していた。相手を見ながら生き生きと発表していた。

- 児童が率先してICT機器の準備や片付けをしてよかった。情報活用能力を身に付けさせるための学習活動としても、とてもよかった。
- デジタル教科書を使用し、資料を拡大提示することによって、すべての児童の視線がスクリーンに集まり、よく集中していた。
- ICT機器活用の多様な使い方を知ることができた。
- デジタル教科書は、地理などで活用するととても有効ではないか。
- スクリーンのセッティング位置は、見やすさの面から考えて、他の場所がよかったのではないか。児童の視点から、スクリーンに死角ができてしまっていた。
- フラッシュカードを提示していたが、スクリーン全体で表示してはどうか。
- 写真を2枚並べて提示し、見比べることができるようにするとよいのではないか。

(4) 指導講評

川越市立霞ヶ関小学校
山田 直樹 校長先生

- 日頃からICT機器を活用している人と、そうでない人との間にはどうしても温度差がある。活用する意識も含めて、その温度差を縮めるためにもこのような研修が必要である。
- 授業の中では、ねらいを押さえることが大事である。

「1単元 1学習問題」

・学習問題を設定し、予想する。



・調べる、もしくは、追究する。



・生かす、もしくは、まとめる。

- 探究的な学習における児童の学習の姿が大事である。
- 学習問題を設定するためには、事実・事象の提示→情報の追加→学習問題の設定という流れが必要である。



- 現在は、児童がICT機器を活用できるという実情があり、児童自身がプレゼンテーションをすることもできる。
- 自分の意志を伝える手段として、ICT機器を授業で活用することは有効である。具体例としては、コンピュータ、プロジェクタ、実物投影器、電子黒板、デジタル教科書、タブレットなどが挙げられる。
- 社会科の授業は資料の質と量で決まる。
- 事実をとらえる資料は最新版を使用すべきであり、できれば授業で活用する写真などは、実物を活用するとよい。



2 まとめ

[成果]

—研究授業の成果—

- 教室を会場とし、デジタル教科書、電子黒板、実物投影機を効果的に活用した授業であった。多様な活用方法が実践された中で、特に導入の場面で提示した拡大資料によって、児童の興味関心が高まり、学習意欲の向上につながった。また、児童主体のICT機器活用について研究することができた。参会者にも、機器の活用の必要性を示すことができた。
- 休み時間中のコンピュータ当番による「機器の事前準備」と「片付け」も公開したことで、参会者から自学級でも実践してみたいという声が多くあった。準備や設定の時間をデメリットと考えていた参会者には、有効な手段を示すことができた。
- 研究協議では、機器の使い方のみでなく、児童に機器を使用させる際の留意点や日頃の指導についても意見が交換でき、有意義であった。
- 指導者からは、社会科という教科としての観点とICT機器活用の観点の両側面からパワーポイントの資料をもとにわかりやすい御指導をいただくことができた。

—授業研究部の成果—

- 今年度の参会者を、情報教育担当教員に限らず、デジタル教科書や電子黒板、実物投影機を活用したことのない教職員、活用方法を研修したい教職員等の希望としたことで、ICT機器の実際の活用方法を広めることができた。
- 小学校を会場とした授業公開であったが、中学校からの参会者にも実態として見てもらうことができ、小・中学校の校種間連携の面からも、有意義であった。

[課題]

- 授業において、ICT機器のより効果的な活用が図られるよう、演習を中心とした研修会の実施や実践事例の紹介等を推進していく。
- 普通教室でのICT機器の更なる活用を図るために、今後も電子黒板やプロジェクタ等のICT機器等を計画的に導入していく必要がある。

【 活用促進部 】

1 ICT機器（3種類）のマニュアル作成

活用促進部では、現在の活用状況を鑑みて、どうすればより多くの先生方が積極的にICT機器の活用の促進が図れるかを中心に考えた。そこで、対象とするICT機器を、デジタル教科書、電子黒板、プロジェクタの3つに絞った。この3種類について、その有用性について理解し、活用するために扱い方の簡単なマニュアルを作成した。

(1) デジタル教科書の使用法（P. 6）

デジタル教科書を使用することで、児童生徒に見せたい絵や写真などを拡大提示することができ、学習を効率的に進めていくことができる。また、資料の一部分を意図的に隠したりする実用的な機能がいくつもある。そこで、これらの機能の活用をより一層図るため、役立つ操作マニュアルを作成した。

(2) 電子黒板の設定方法（P. 7）

電子黒板には、映されたスクリーン上でコンピュータを直接操作できる、画面に直接書き込むことができる、書き込んだ画面を保存できるなどの利点がある。しかし、機器の設置や調整に手間がかかるため、授業での活用が進まない現状が見られる。そこで、電子黒板 Mimio の機器設置の方法をわかりやすくしたマニュアルを作成した。

(3) プロジェクタの設定方法（P. 8）

プロジェクタは、コンピュータやビデオなどの映像を提示する装置として、ICT機器の中で最もよく活用されているものである。しかし、本体に多数のボタンやコネクタがあり、コンピュータとの接続や設定に手間がかかるため、活用を躊躇してしまうという実態がある。そこで、コネクタや設定ボタンの位置など、設置に必要な最小限の手順をまとめたマニュアルを作成した。



2 まとめ

〔 成果 〕

- 授業研究部の意見を生かしながら、ICT機器の活用促進を図るマニュアルを作成することができた。デジタル教科書、電子黒板、プロジェクタの3種類のICT機器の使用法に関して「誰にでも使えるマニュアル」を合い言葉に使用者の視点に立って作成した。
- より短時間でICT機器の操作方法を習得することができるように、視覚的にも分かりやすいマニュアルを作成することができた。
- 川越市のグループウェア内にマニュアルを保存することにより、各校でいつでも印刷、取り出しをして活用できるようにした。

〔 課題 〕

- ICT機器の活用を促進するためには、操作方法がわかることも大切であるが、次の点が重要なポイントとなる。①校内のどこに配置または保管しておくのか ②使用する際の手続きはどうするのか ③設置は教室内のどの場所が適切なのか ④使用する際の留意点は何か ⑤運用や環境、安全面についてはどうなっているかである。
- 情報教育主任のリーダーシップのもと、校内研修を充実させることが重要である。
- ICT機器に自分の手で実際に触れ、使ってみることが大切であり、それらの機会を積極的に作っていくことが必要である。

(1) デジタル教科書の使用方法

デジタル教科書は、教科書の説明や関連した発展的な内容を、写真や立体的な映像資料で見ることができます。社会科のデジタル教科書を例に使用方法を説明していきます。 <資料1>

1 目次のページ

デジタル教科書を起動すると目次のページが表示されます。単元をクリックし、開きたいページをクリックするとすぐにページが表示されます。



クリックすると各項目のページが表示されます。

2 ページの操作方法

※1の□マークをクリックすると、その写真に関連した動画が見られる。

※2のページをクリックすると、そのページが表示される。既習事項も簡単に確認できる。ツールバーを利用すれば、デジタル教科書内に直接書き込みもできる。<写真3>重要箇所や児童の気づきを書き込んでおくと、前時の振り返りなどもより効果的に行うことができる。

※3の画像をクリックすると、さらに大きく表示され、児童に注目させるのに便利である。<写真4>



<写真2>



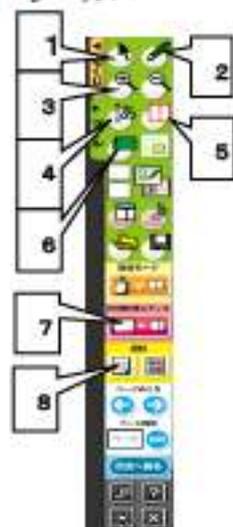
<写真3>



<写真4>

3 ツールバー

デジタル教科書の横にはツールバーがあり、画面上を学習に合わせて自由に動かしたり加えたりすることができる。



[主な機能]

- 1 ツールバーを使用した後、元に戻すボタン。
- 2 デジタル教科書内に書き込むことができる。色や太さも変更可能。
- 3 拡大、縮小ができる。※①
- 4 キーボードを使って、書き込むことができる。色や太さも変更可能。
- 5 吹き出しなどを使って、メモをすることができる。
- 6 付箋 重要語句を隠しておくことができる。※②
- 7 授業で使う箇所だけを選び、カスタマイズできる。
- 8 単元ごとにワークシートも用意されている。

※① 詳しく見たいところをアップにするとよく観察ができます。また、倍率を最大にしておき、「これはなんですか」と導入時にクイズ形式で進めることもできます。



※②付箋機能。重要語句を隠しておくことができます。クリックしながら右へずらすと付箋をめくることができます。



(2)電子黒板の設定方法

プロジェクタを用いてデジタル教科書や静止画、動画の提示を行うことは、児童生徒の集中力や理解力の高まり、授業の活性化につながっていくと考えられる。さらにプロジェクタでスクリーンに投影するだけでなく、投影した画面に教師の動作が加われば、より集中することができる。

下の写真は、プロジェクタとともに導入された、電子黒板 Mimio の活用を目的とし、作成した。



このシートに実物の電子黒板 Mimio を乗せれば、配線や設定を簡単にすることができる。視覚的かつ直感的に設置作業を進めれば、あまり負担となることなく、準備ができるのではないかと考えた。

設置に関しては、回数を重ねることで手際がよくなる。教師自身が準備することももちろん大切であるが、児童生徒が「機器の設置ができる」ということも学習の一部という考え方ができる。

今後、児童生徒の情報機器の活用という観点から、児童生徒による設置準備や後片付け等の活動も積極的に取り入れていくことが必要と考える。

(3) プロジェクタの設定方法

プロジェクタの活用場面は、教科の学習場面だけでなく、オリエンテーションや、講演会など、さまざまな機会に広がってきている。授業の中では、デジタル教科書の活用や、実物投影機、ビデオなどの機器と接続し、児童生徒の興味関心を喚起しながら、分かりやすい授業につなげることができる。プロジェクタの設定時に使えるように「実物を乗せて確かめるシート」と「機器をつなげるシート」を作成した。

実物を乗せて確かめるシート



PCとプロジェクタをつなげるケーブル

電源供給コード

プロジェクタ本体



プロジェクタの起動

- 1 先にプロジェクタの電源を入れ、次にパソコンを起動させる。
- 2 入力検出のボタンを押し、パソコンの画面を映すチャンネルに切り換える。

機器をつなげるシート



ケーブルをPCとプロジェクタにそれぞれつなげる。



プロジェクタ本体

平成25年12月3日(火) 第5校時
 児童数 男子18名 女子15名 計33名
 学習場所 6年3組 教室
 授業者 佐藤 穰

1 小単元名 新しい日本、平和な日本へ

2 小単元について

(1) 教材観

本小単元は、学習指導要領の内容(1)ケを扱う。日本国憲法の制定、オリンピックの開催などの歴史的事象を具体的に取り上げ、「戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと」を考えていく。

日本国憲法の制定では、女性の国会議員や女性が投票しようとしている資料などから民主主義国家として再出発したことを読み取ることができる。

オリンピックの開催では、当時の国民生活が向上したこと、国際社会において重要な役割を果たしたことを2020年に開催が決まった東京オリンピックと関連させ意欲的に学習できる教材である。また、川越市がゴルフ会場に決まったことから、川越市にたくさんの旅行者が訪れることが予想される。そのことと関連させ、今後どのような国や市を目指していくのかを考えていくようにする。

(2) 児童観

本学級の児童は、活動が好きで地図帳調べや歴史人物・文化カードクイズなどに積極的に取り組む。アンケートによると、社会科については好きな児童と嫌いな児童の二極化が見られる。好きな理由として、「歴史人物について学習することが楽しい」、「デジタル教科書を使っての授業が楽しい」ということが挙げられた。しかし、覚えることが多いために嫌いと答える児童もいた。

	好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
社会の学習は好きですか	9人	13人	9人	2人

《 調査日：平成25年11月7日 調査人数：33名 》

資料を読み取ることが苦手な児童や自分の考えをまとめ発表することに大変消極的な児童がいる。そのため、デジタル教科書を活用し教科書の絵や写真、グラフの読み取りを行ってきた。また、発問に対する自分の考えやまとめを実物投影機を活用し説明するなどしてきた。その結果、資料の読み取りでは、資料からわかることだけでなくその背景についても考えることができる児童が増えてきた。また実物投影機を活用することによって、ノートを丁寧に書いたり、発表できるようにわかりやすく書いたりする児童が増えてきた。

ICT機器については、児童はICT機器を使っての授業はわかりやすいと感じており、機器を使用することも好きである。社会科では、実物投影機を使い自分やグループの考えを発表することができる。また、相手が見やすくなるために自ら機器を操作し、拡大調整するなどの姿も見られる。

ICT機器の準備片付けについては、コンピュータ当番があり積極的に活動している。機器のセッティングからプロジェクターの位置調整、電子黒板のタッチペンの調整などを行うことができる。

	わかりやすい	どちらかというわかりやすい	どちらかというわかりにくい	わかりにくい
デジタル教科書を使う学習はわかりやすいですか	30人	3人	0人	0人
実物投影機を使っての友達の説明はわかりやすいですか	20人	13人	0人	0人
デジタル教科書の動画はわかりやすいですか	27人	6人	0人	0人

《 調査日：平成25年11月7日 調査人数：33名 》

戦前、戦中を通しての学習の感想を見ると、「他の国の土地を奪うために人を殺すことは許されない、二度と過ちを起こしてはいけない」「戦争は悲しみや憎しみしか生まない、二度と起こってほしくない」「今まで学習した中で一番かわいそうな時代の勉強だった」ということが書かれており、平和を願う感想が多かった。

本小単元で学習する戦後の日本について、知っていることをアンケート調査した。数名の児童が「オリンピックが開催された」「これから戦争をしないと誓った」「湯川秀樹さんが日本人で初めてノーベル賞を受賞し戦後の日本を明るくしてくれた」と答えたが、多数の児童は戦後の日本について「特に知らない・分からない」と答えた。戦後の日本についての知識がほとんどないので、意欲的に学習できるような学習問題を設定していきたい。

(3) 指導観

民主的な国家として出発したことや国民生活が向上したこと等について、資料の読み取りから話し合いを行い、深めていく授業を行う。導入では、新宿のまちの変化から学習問題を考えていく。日本はどのような国を目指すべきかについては、オリンピックのゴルフ会場にも決まった川越市についても考えていくようにする。また、ICT機器の特性を効果的に生かした授業を行うことで本小単元の目標を達成していく。使用するICT機器は、電子黒板(Mimio)、デジタル教科書、実物投影機である。単元全体を通し、資料を拡大することによって、①興味関心を高める。②めあてを明確につかませる。③わかりやすい説明をする。④知識の定着を図る。ということをねらって指導していきたい。本時における具体的な手立てを示す。

【手立て1】 フラッシュカードの活用 (実物投影機)

実物投影機の画像保存機能で単元に関わる歴史人物の顔の絵や文化財の写真を保存する。それをプロジェクターでスクリーンに映し、フラッシュカードにして知識の定着を図る。

ボタン一つで手軽にフラッシュカードを作ることができ効果的である。また、特徴のある部分を拡大するなど変化をつけたフラッシュカード作りもできる。



【手立て2】 教科書資料の拡大提示とブラインド機能の活用 (電子黒板・デジタル教科書)

P140の新宿のまちの変化を拡大提示する。どの資料を読み取ればよいのかが一目でわかることや児童が読み取ったことを確認することができ効果的である。タッチペンや水性ペンで書き込むこともできる。

また、電子黒板のブラインド機能を使い、児童の興味関心を高めて資料の提示をすることもできる。



【手立て3】 グループ活動の際の時間の提示 (実物投影機)

グループ活動の際にストップウォッチの画面を拡大提示し、話し合いをする時間の目安がわかるようにする。



【手立て4】 発表時のノートの拡大提示 (実物投影機)

発表時に、実物投影機を使い児童のノートを拡大提示する。児童は資料を手に持ち、読みながらの発表から、資料を提示しながらの発表になり自然と顔を上げ、相手を意識した発表をすることができる。また、発表を聞く児童にとっても資料が提示されているのでわかりやすく、考えを交流する時にも効果的である。



【手立て5】 教科書の資料に沿った動画の活用 (電子黒板・デジタル教科書)

学習の振り返りやまとめの際にデジタル教科書の動画を活用する。教科書の資料に沿った動画のため児童にとってわかりやすい。また、1分程度と短時間のため効果的である。

3 小単元の目標と評価規準

日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて絵や写真等の資料を活用し調べ、我が国が民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことについて理解する。

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象の 知識・理解
日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて意欲的に調べ、考えながら追求している。	我が国が民主的な国家として出発し国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしたことについて思考・判断し、言語活動を通して表現している。	我が国が民主的な国家として出発し国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしたことについて絵や写真、年表等の資料を活用し調べている。	我が国が民主的な国家として出発し国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしたことが分かっている。

4 小単元の指導計画・評価計画 (6時間扱い 本時 1/6時)

過程	○学習活動 ・学習内容	□学習活動に即した評価規準 () 評価方法 発：発言 ノ：ノート
つかむ (1)	○ まちの変化の様子について話し合い、学習問題を考える。(本時) ・資料の読み取り方 ・発表の仕方 ・学習問題	思 まちの変化の様子について資料を活用しながら話し合い、学習問題を考えることができる。(発、ノ)
調べる (3)	○ 民主的で平和な国家として改革されたことを調べる。 ・日本国憲法 ・戦後改革 ○ 日本が世界の仲間にもどるまでについてどのようなことがあったか調べる。 ・国際連合 ・国民生活の向上 ○ 東京オリンピックが開かれ、日本はどのように発展したのかについて調べる。 ・東京オリンピック	技 資料から我が国が民主的な改革と平和主義的な日本国憲法を制定するにより、新しい国として出発したことを読み取っている。(発、ノ) 知 日本の独立が承認され、国民の努力によって産業が発展したことがわかっている。(ノ) 知 オリンピックの開催で国際社会に認められ、さらに経済が発展し生活が向上したことがわかっている。(ノ)
生かす (2)	○ これからの日本は、どのような国、川越市になることを目指していったらよいかについて調べる。 ・日本の問題や課題 ○ これまでの学習をまとめ、学習問題について自分なりの考えを新聞等にまとめる。	関 思 現在の日本が抱える問題や課題、果たすべき役割について興味関心をもって考え、日本のすべきことを表現している。(発、ノ) 知 戦後我が国が民主的な国家として出発し国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かる。(ノ)
	戦争が終わってから日本は、どのようなことがあり、どのように変わったのか。 戦争が終わってから日本は、新しい日本国憲法ができ平和で民主的な国になった。国民の努力によって生活が豊かになり、日本は国際社会の中でも重要な役割を果たすように変わっていった。	

5 本時の学習指導 (1/6)

(1) 目標 まちの変化の様子について資料を活用しながら話し合い学習問題を考えることができる。

【社会的な思考・判断・表現】

(2) 展開

【休み時間】

コンピュータ当番が ICT 機器の準備を教師と共に行う。

- ・教材提示用 PC
- ・電子黒板 (Mimio)
- ・プロジェクタ
- ・マグネットスクリーン
- ・実物投影機
- ・小型スピーカー
- ・SD カード

- 《準備のルール》
- ・ICT 機器を職員室から持ってきて、機器のセッティングを行う。
 - ・機器は丁寧に扱い、汚れた手で触らない。
 - ・コードが絡まらないようにセッティングをする。
 - ・セッティング用目印テープを目安に固定の場所に設置する。
 - ・前方のカーテンを閉めるようにする。

《ICT 機器の設置場所》

セッティング用目印テープを貼っておき、固定の場所に置けるようにする。

《スクリーンをきれいに貼る方法》



学習活動	学習内容	指導 (○) と評価 (評)	資料	時間
1 フラッシュカードから既習事項について振り返る。 【手立て1】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼け野原 ・ 原爆ドーム ・ 平和祈念像 ・ 玉音放送を聞く人々 	○ 実物投影機の画像保存機能で保存した絵や教科書の写真をフラッシュカードにして映していく。	教材提示用PC 実物投影機 プロジェクター マグネット スクリーン SD カード	2分
2 本時のめあてを確認する。	戦後のまちの変化について気付いたことを話し合おう			
3 新宿のまちの変化について話し合うことを確認する。 【手立て2】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の課題 ・ 資料の読み取り 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書は開かないようにする。 ○ 現在の新宿 (2009年) の写真を提示し「ここはどこだと思う?」という発問によって、まちについて興味を持たせるようにする。 ○ 新宿について知っていることを聞き意欲を高めるようにする。 	新宿の絵 (デ教 P140)	2分 3分
4 戦後の新宿の様子について気付いたことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の読み取り 	○ 戦後の新宿 (1945年) の写真を提示する。その際、提示する前にどのような町並みか予想させる。また、ブラインド機能を使って興味を高めるような提示をする。		7分

<p>5 まちの変化の様子について気付いたことをグループで話し合いまとめる。 【手立て3】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの仕方 まとめ方 	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の新宿の写真から「わきお」（わかったこと、きづいたこと、思ったこと）を發表させるようにする。 1962年の新宿の写真を提示する。 3枚の写真からまちの変化について話し合い、まとめていくようにする。 まとめる際に「どこがどのように変化したか」「このことから～ということが考えられる」という2点を意識するようにする。 実物投影機を活用しストップウォッチを映し、話し合いの残りの時間がわかるようにする。 	  <p>ストップウォッチ 実物投影機 3枚の新宿の写真</p>	<p>10分</p>
<p>6 まとめたことを発表する。 【手立て4】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 実物投影機を使って、発表するようにする。発表後は、実物投影機の写真機能を使い、保存するようにする。 各グループ（8グループ）が1分以内で発表するようにする。 発表を聞く際に、各班の内容をノートに書くようにする。 デジタル教科書の動画からまちの変化の様子を振り返るようにする。 	<p>まちの変化の動画 (デ教P140) 小型 スピーカー</p>	<p>14分</p>
<p>7 まちの変化の様子の動画を見て、振り返る。 【手立て5】</p>	<ul style="list-style-type: none"> まちの変化の様子 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書の動画からまちの変化の様子を振り返るようにする。 	<p>まちの変化の動画 (デ教P140) 小型 スピーカー</p>	<p>1分</p>
<p>8 話し合ったことを生かし、学習問題を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題を考える前に、1945年から1962年の17年間でのまちの変化に注目するようにする。 戦後の日本について調べたいことをノートに書くようにする。 評まちの変化の様子について資料を活用しながら話し合い、学習問題を考えることができる。 		<p>6分</p>

○ マグネットスクリーンを片付け、児童が調べたいことから学習問題を作り、板書するようにする。

戦争が終わってから日本は、どのようなことがあり、どのように変わったのか。

【休み時間】

コンピュータ当番が ICT 機器の片付けを教師と共に行う。

- ・教材提示用 PC
 - ・電子黒板 (Mimio)
 - ・プロジェクタ
 - ・マグネットスクリーン
 - ・実物投影机
 - ・小型スピーカー
 - ・SD カード
- 《片付けのルール》
- ・コードをきれいに束ねて片付ける。
 - ・コードに貼ってあるテープを見て、間違えないように片付ける。
 - ・ICT 機器を職員室に持っていく。

6 板書計画



7 ICT 機器のセッティング場所



学力調査研究委員会

I 研究の概要

1 目的

川越市立小中学校の児童生徒を対象に実施した教研式標準学力検査 (NRT) 及び川越市中学生学力調査の結果を基に、川越市全体の学力の状況を分析・考察し、各学校での指導法の工夫改善に資する。

2 研究内容

- (1) 平成25年度標準学力検査、平成25年度川越市中学生学力調査の結果を分析する。標準学力検査については経年変化を示す。
- (2) 国語、社会、算数・数学、理科、英語の各教科部会ごとに、川越市の傾向や課題をつかみ、課題解決のための具体的な指導方法を示す。
- (3) 各学校が自校で研修できるように、それぞれの調査等を分析し、活用できるような冊子とCDを作成する。

3 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成25年 8月28日 (水)	教育センター	・ 委嘱書交付 ・ 趣旨説明 ・ 本年度の方針及び活動計画 ・ 標準学力検査結果の分析 ・ 冊子の内容検討
平成25年 11月29日 (金)	教育センター	・ 中学生学力調査結果の分析 ・ 指導の手立ての検討 ・ 冊子原稿の検討
平成26年 2月12日 (水) 英語科： 2月 4日 (火)	教育センター	・ 冊子原稿の確認と調整

【国語科】

1 国語科における本市の傾向

(1) 教研式学力検査（NRT）の偏差値より

① 小学校の傾向

- ・小学校では、平成20年度から平成25年度を見ると第4～6学年において、どの学年も平均値の50を上回っている。しかしながら、過去6年間を見ると、多少の上下はあっても、偏差値は下降傾向にある。
- ・平成25年度においては、第5学年は前年度より偏差値が1ポイント上がっている。第4学年、第6学年は1ポイント未満ではあるが、下がっている。

② 中学校の傾向

- ・第1学年（内容は小学校第6学年）、第2学年（内容は第1学年）ともに「書くこと」の正答率が比較的高く、平均値の50を上回っている。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質」の正答率については、今年度も全国平均を下回り、ひき続き課題になっている。
- ・「漢字の書き」では、第1学年の「測量」が通過率28%、「修める」が24%、第2学年の「垂らす」が43%と低く、全国平均との差が大きい。
- ・第2学年においては、説明的な文章についての問題である「要点の読み取り」についても全国平均と比べ、通過率が低い。

(2) 川越市中学生学力調査の結果から

- ・全体では、1回目の正答率が60.0%だったのに対して、2回目44.0%と低い。
- ・小問では、「活用の種類」や「品詞」といった文法事項についての問題の正答率が40%を下回っている。
- ・「内容の理解」、「要点の理解」の正答率も40%を下回っており、文学的文章の読み取りに比べ、説明的文章の読み取りの方に課題が見られる。
- ・漢字についての小問では、「延納」、「備わった」の書き取りがともに正答率50%以下と低い。

2 国語科における課題

(1) 小学校では、以下の2点が課題として挙げられる。

① 漢字の読み書き

既習ではあっても日常生活において使用頻度の低い漢字の定着が図られていない。国語の学習だけでなく、読書や他教科等での調べ学習などを通して、様々な漢字を読んだり書いたりする機会を増やしていくことが大切であると考えます。

②ローマ字

促音や拗音などの書き方も含めて、折を見て繰り返し指導していく必要がある。

(2) 中学校では、以下の2点が課題として挙げられる。

①漢字の読み書き

同音異義語や部首の違う似た形の漢字についての学習が不十分であると思われる。漢字のみを繰り返し書いて練習するだけでなく、その漢字を使った熟語づくりや文づくりを行ったり、間違えやすい同音異義語を訂正させる問題を解いたりすることが必要である。

②説明的文章の読解力

説明的文章の要点を読み取ることの正答率が低い原因として段落相互のつながりを意識せず、断片的な読みになってしまっていることが考えられる。接続語の働きに着目して、文脈を正しく理解することが必要である。

3 指導の手立て

学力分析の結果から、「言語事項」に課題があることが明らかになった。学習したことを定着させるには、繰り返し学習することが大切である。そこで、定着が不十分なローマ字や漢字について、以下のような指導の手立てを考えた。中学校では、さらに「読むこと」も他の領域と比べ正答率が低いため、読むことの力を高めるための手立てを考えた。

(1) 小学校

ローマ字に親しませ、読み・書きを定着させる指導の工夫

- ① ローマ字の学習は、国語科の学習では、第3学年において6時間程度が指導時数とされているだけである。児童に確実に定着させるためには、ただ読んで書かせるだけではなく、児童が興味をもって取り組めるような工夫も必要である。そこで、しりとりやなぞなぞなどゲーム性を取り入れ、反復練習が図れるようにする。その中で、基本となる母音や子音の表記、長音や促音の表記の決まりを定着させられるよう、ワークシートを工夫する。

(学力分析と指導の手立て11 小学校国語科 指導資料①)

- ② ローマ字を定着させるためには、学習する機会を増やすことが必要である。そこで特別教室の表示など児童が普段目にする場所をローマ字で示すことで、文字と音が一致するようにする。普段の学校生活で教師が指導する際にも活用できる。

(学力分析と指導の手立て11

小学校国語科 指導資料②)



漢字の読み書きを定着させる指導の工夫

漢字を正しく読み、正しく書く力は、各教科等においても理解したり、表現したりするために必要とされる力である。文の意味を理解し、適切に漢字の読み書きができる力を身につけるワークシートを作成した。

- ① 漢字の音読みと訓読みの両方を学習する内容にした。その際、漢字の意味を理解した上で書けるよう、国語辞典や漢字辞典を活用させるようにした。

(学力分析と指導の手立て11 小学校国語科 指導資料③)

- ② 既習であっても、日常生活で児童があまり使うことのない「経る」「招集」(学年・内容第5学年)などの漢字を、文や文章の中で適切に使えるような内容とした。

(学力分析と指導の手立て11 小学校国語科 指導資料④)

(2) 中学校

漢字学習への意欲を高め、確かな読み書きの力を身につけさせるための指導の工夫

- ① 漢字の学習というと、漢字を繰り返し書いてばかりで、「学習」というよりは「作業」になってしまいがちである。それでは、生徒の意欲も起こらず、結果として漢字も覚えられない。ゲーム感覚で取り組める漢字の課題を与え、漢字を楽しみながら覚えさせたい。

- ② 中学生になると、既習漢字の数が増え、語彙が豊かになる。しかし、同時に、形の似ている漢字や同音異義語、同訓異義語など、間違えやすい漢字も増えてくる。そこで、間違えやすい漢字を集め、訂正させることにより、漢字の読み書きの定着を図りたい。

(学力分析と指導の手立て11 中学校国語科 指導資料①)

接続語や段落のつながりに着目して、説明的文章の要点を読み取るための指導の工夫

教研式標準学力検査(NRT)の結果を見ると、説明的文章の問いで、「要点の読み取り」や「文脈の理解」の部分の通過率が低くなっている。説明的文章は、段落同士の関係やつながり、キーワードなどを押さえていないと、要点や文脈をつかむことは難しい。接続語に注目して前後の段落のつながりを読み取ったり、キーワード、キーセンテンスを抜き出して要点をつかんだりする力をつけさせたい。

(学力分析と指導の手立て11 中学校国語科 指導資料②)

【社会科】

1 社会科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）の偏差値より

- ・小学校では、児童生徒の通過率を全国通過率と川越の通過率の比較から見ると、第4・5学年は全国を上回っているが、第6学年は全国を下回っている。第6学年（内容第5学年）の「世界の主な大陸・海洋と国々」と「日本の地形や気候の特色」、中学校第1学年（内容小学校第6学年）の「武士の世の中」は、昨年度に続き全国と比べて大きく下回る状況になっている。
- ・中学校では、平成20年度から平成25年度で平均値を下回り、学年が進むにつれ、偏差値が低下している。特に第2学年で低下の幅が大きい。

(2) 小学校の傾向

小学校では、児童生徒の通過率を全国と川越の通過率の比較から見ると、第4・5学年は全国を上回っているが、第6学年は全国を下回っている。第6学年（内容第5学年）の「世界の主な大陸・海洋と国々」と「日本の地形や気候の特色」、中学校第1学年（内容小学校第6学年）の「武士の世の中」は、昨年度に続き全国と比べて大きく下回る状況になっている。

(3) 中学校の傾向

全国と川越市の通過率を比較すると、第1・2学年ともに下回わり、そのポイントも学年が進むにつれて低下の傾向にある。5段階出現率は、4と5の段階の割合の合計は全国を上回る（第1学年）または全国と同数（第2学年）である。しかし、1の段階が10パーセントを超えている。第1学年の分野別では、地理的分野が全国を上回り、歴史的分野と公民的分野が下回っている。第2学年の分野別では、地理的分野歴史的分野ともに全国を下回っている。歴史的分野の中では、特に鎌倉時代（第1学年）、奈良・平安時代（第2学年）において理解不足が顕著である。

- #### (4) 中学校で実施されている「川越市中学生学力調査」では、領域別にみると地理的分野の設問での正答率が高く、観点別に見ると、社会的思考・判断・表現、資料活用の技能の設問での正答率が低い傾向が見られる。

2 社会科における課題

- #### (1) 小学校では、内容第4学年の地図記号や方位、内容第5学年の川の流れる方向、内容第6学年の檀の浦の位置など方位の読み取りや地名の名称や位置の問題の正答率が低くなっている。その原因として、地図帳の活用不足や47都道府県の名称と位置の習得が十分でないことが考えられる。地図帳を日常的・効果的に活用していくことや都道府県の名称や位置も確実に習得させる機会（授業の工夫や達成度評価、教室掲示など）が必要である。

- (2) 中学校では、「元の襲来」「北条時宗と元寇」「インダス文明」で正答率が低くなっている。歴史的各事象の理解はよいが、時代背景や近隣諸国との関わり、そして、各時代の歴史地図の理解が不十分となっている。文章で表された歴史的な事象を地図などの形に表現する活動が取り入れたい。
- (3) 「川越市中学生学力調査」においては、社会的思考・判断・表現、資料活用の技能を問う設問の正答率が低い。改善策として、歴史的な事象の知識を確実に身につけるとともに、歴史の大きな流れの中で、歴史的な事象の因果関係を理解させる必要がある。

3 指導の手立て

(1) 小学校

方位や地図等に関する知識や能力の定着、活用力を高める指導のポイント

「小学校学習指導要領解説 社会編」では、「地図帳については、日常の指導の中で、折にふれて、地図の見方や地図帳の索引の引き方、統計資料などの活用の仕方などについて指導し、地図帳を自由自在に活用できる知識や能力を身に付けるようにする。」とある。大事なことは、単に地図帳の活用の仕方が分かっているということではなく、地図帳で確かめる（調べる）ことが学習欲求として表れてくることである。そのためには、地図に関する知識や地図帳を活用するための技能を確実に教えなければならない。

手立て1 地図帳活用のための基礎指導「地図帳を開こう」を小単元として設定

第4学年の児童から初めてふれる「地図帳」を効果的に活用していくために、第4学年4月の社会科最初の学習として小単元「地図帳を開こう」（2時間）を設定し、地図帳開きをする。

1 小単元名 「1 地図帳を開こう」

2 小単元の目標

地図帳に関心を持ち、地図帳の特徴や見方、使い方、活用の仕方などについて理解し、これからの社会科学習で効果的に使えるようにするために慣れ親しむことができる。

3 小単元の指導計画（2時間扱い）

学習活動・学習内容	留意点																																																																								
<p>① 自由に地図帳を観察し、自分たちが住む埼玉県や川越市を索引（緯線・経線）から探す活動を通して、地図に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県や川越市を地図帳から探すこと ・都道府県庁の意味 ・索引からの探し方（緯線・経線を使った見方） <div data-bbox="236 611 815 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>埼玉県川越市 ウ6 (帝国書院地図帳 P.36)</p> <table style="border-collapse: collapse; text-align: center; margin: auto;"> <tr> <td></td> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>オ</td> <td>カ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>↓</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>←</td> <td></td> <td>★</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>オ</td> <td>カ</td> <td></td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達から指示された地名を探すこと 		ア	イ	ウ	エ	オ	カ		1			↓				1	2							2	3							3	4							4	5							5	6	←		★				6	7							7		ア	イ	ウ	エ	オ	カ		<ul style="list-style-type: none"> ○地図帳を配布し、5分程度自由に見させる。 ○活用するための「方法」「コツ」「裏わざ」「手立て」といった言葉で子どもたちに活動の仕方を伝えていく。 ○ページ番号が上部に記載されていることにふれる。 ○丁寧に机間指導にあたる。 ○都道府県庁の意味は丁寧に説明する。 ○緯線・経線という用語は教え込まず、「青い線」でよい。 ○指でしっかりと青い線をなぞらせる。 ○地図帳と同じようにマス目を板書し、1マスを「番地」と言いながら説明していく。
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ																																																																			
1			↓				1																																																																		
2							2																																																																		
3							3																																																																		
4							4																																																																		
5							5																																																																		
6	←		★				6																																																																		
7							7																																																																		
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ																																																																			
<p>② 身近な具体的事実をもとに、地図帳の記号の意味や土地のようすの調べ方などについて理解し、地図に関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の「地名の探し方」を振り返ること ・◎や○などは人口の違いであること <div data-bbox="236 1451 879 1720" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 20px;"></td> <td>さいたま市 …人口 100 万人以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td>川越市 …人口 20 万～50 万</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td>狭山市 …人口 10 万～20 万</td> </tr> </table> <p>そのほか「○」は町 「・」は字、旧市町村など</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳の色は土地の高さを表していること ・きよりのはかり方 ・練習問題に取り組むこと 		さいたま市 …人口 100 万人以上		川越市 …人口 20 万～50 万		狭山市 …人口 10 万～20 万	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が記号の存在を把握しているか確認する。 ○川越市や秩父市などの略地図を板書し、色・土地の様子を示しながら説明する。 ○「等高線」について説明する。 ○「きよりのはかり方」は簡単に扱う。 ○3年生までに使っていた学区や市町村の地図などを想起させて、地図は実際の地域を縮めたものであることを理解させる。 ○地図帳を忘れずに持ってくることを伝える。 																																																																		
	さいたま市 …人口 100 万人以上																																																																								
	川越市 …人口 20 万～50 万																																																																								
	狭山市 …人口 10 万～20 万																																																																								

手立て2 第4学年小単元「(1) 埼玉県の様子」の中で47都道府県の名称と位置の学習(2時間程度)

1 小単元名 (1) 埼玉県の様子

2 小単元の目標

埼玉県の様子に関心を持ち、県の地図や地図帳などを活用して意欲的に調べ、白地図にまとめる。また、埼玉県や川越市の地理的位置、47都道府県の名称と位置、県全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置などを理解し、県の地形や産業などの特色について思考・判断したことを言語などで適切に表現し、埼玉県に対しての関心を高めようとしている。

3 小単元の指導計画

学習活動・学習内容

- ① 埼玉県のパンフレットを持ち寄ったり、知っていることを発表し合ったりしながら、埼玉県はどのような様子になっているのかを話し合い、学習問題を考え、学習計画を立てる。
- ②③ 埼玉県の土地の様子と土地利用について、**白地図への色ぬりや立体地図模型づくりなどの活動**を通して、埼玉県の地形の特色について調べ、白地図にまとめる。
- ④ 埼玉県内にある**主な都市の位置や特色**について調べ、白地図にまとめる。
- ⑤ 埼玉県内にある**主な都市を結ぶ交通網**について調べ、白地図にまとめる。
- ⑥ 埼玉県と外国のかかわりについて調べ、白地図にまとめる。
- ⑦⑧ **埼玉県の位置の表し方や埼玉県の近隣都県、遠く離れた道府県がつながりをもっていること、47都道府県の名称や位置などを調べ、白地図にまとめる。**
- ・ 埼玉県の位置の表し方
【例】「埼玉県は、本州の中央部(真ん中)にあります。」
「**埼玉県は、北側を栃木県と群馬県に、西側を山梨県と長野県に、南側を東京都に、東側を千葉県と茨城県にかこまれています。**」
 - ・ 交通(鉄道・道路)によるつながり
 - ・ 農業生産物によるつながり
 - ・ 人によるつながり
 - ・ 自然とのつながり
 - ・ **47都道府県の名称と位置**
- ⑨⑩ これまでに調べたことを基に、埼玉県の地形や交通、他地域とのつながりなどの面から埼玉県の特色をまとめ、埼玉県ガイドブックを作成する。
- ⑪ 学習問題の結論について話し合い、結論を導き出す。

手立て3 達成度テストや簡単なゲーム等の実施

授業内で十分な補充等ができないことも予想できるので、定期的にあるいは第4学年の「わたしたちの埼玉県」を展開している間は、集中的に達成度テストを実施したり家庭学習の課題として都道府県名称を書き込ませるプリントや地図帳を使った調べ学習プリントに取り組ませたりする。

また、都道府県や県庁所在地に関するテストを学年・学校全体で実施する。例えば、「興味のある人はチャレンジ」と日本地図と一緒に廊下等に掲示し、いつでも・誰もがテストが受けられる環境整備等を図る。ステップアップ式で、合格した児童には賞状を渡すなど児童の意欲の喚起・持続・拡充が図られるように工夫する。名称を覚えることだけでなく低学年からの実施も十分に考えられる。

さらに、普段の社会科学習内において、導入の3～5分間で地図に親しむクイズ（ゲーム）を行うこと（週1回程度）も考えられる。

<クイズ・ゲーム例>

- ・海に面していない県は
- ・地名早引きクイズ
- ・「川」（「山」）がつく県は
- ・人口クイズ（所沢市の人口は）
- ・都道府県フラッシュカード
- ・都道府県章クイズ など

<ステップアップの例>

- 6級 方位を正しく指せる
- 5級 地図記号が分かる
- 4級 指定した地名を索引から見つけられる
- 3級 都道府県名が正しく言える
- 2級 都道府県名が正しく書ける
- 1級 県庁所在地名が正しく言える

手立て4 積極的な方位の活用と教室掲示等の工夫

- ① 新学習指導要領の解説書では、「八方位については、（中略）第4学年修了までに身に付けるようにする」とされている。第3学年の学習では八方位は軽く扱い、第4学年の「県の様子」の学習において確実に身に付けられるように配慮する。その際、「〇〇は学校の南東にある」「〇〇川は北東から南西に流れていて…」などと位置関係を四方位や八方位を使った説明を積極的にさせるようにする。
- ② 第3学年に限らずどの学年の教室にも「東・西・南・北」の方位を表示することや、各階の廊下掲示板等に学区域地図や市区、日本地図の掲示をするなど日常的に「地図を眺める」環境を整備する。また、隣接する学区、または市や町の名前も示しておけばより効果的と考える。

(1) 中学校

歴史的事象を様々な資料を活用してまとめ、その時代を大観し表現させる指導の工夫

その学習の例として

古代 日本と東アジアの関係

【留意点】

- ・大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりなどを通して、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。

中世 元寇・日明貿易・琉球の国際的な役割と日本

【留意点】

- ・武士が台頭して武家政権が成立するとともに、古代とは違う東アジア諸国との密接なかかわりや、それが国内に及ぼした影響などに気付かせる。

近世 ヨーロッパ人の来航と鎖国の影響

【留意点】

- ・織田・豊臣による統一事業の進展とその背景には、ヨーロッパにおける新航路の発見や宗教改革によるヨーロッパ人が来航する要因があったことに気付かせる。

近代 不平等条約の締結と改正

【留意点】

- ・不平等条約の締結と改正の背景を、国力・政治的基盤の弱小な日本が、富国強兵政策を実施する中で、ヨーロッパ列強と対等な外交関係を樹立したことに気付かせる。

現代 冷戦とその終結

【留意点】

- ・米ソ両陣営の対立による代理戦争の勃発、中国・インドなど非同盟諸国の台頭、米中接近、日中国交正常化など国際環境の変化を年表化することにより、米ソ両陣営の対立が終結したことに気付かせる。

「時代を大観し表現する活動」は新たな項目として設定されたものである。ここでは、2つに分けて考えた。

- ① 近隣諸国（日本と強く関係を持つ国）の社会情勢や資料をもとにして、一枚のシートに図としてまとめてみる。
- ② シートにまとめたものに基づいて、「つまりこの時代は・・・」と各時代の特色を大きくとらえ、意見交換や発表をする。言語学習を充実させる活動
－ 様々な資料から情報を読み取り、整理、分析して考え、まとめたことを適切に表現する学習をさせる
－ について考えた。

47都道府県名と位置をマスターしよう！

年 組 番・名前

☆下の都道府県章の都道府県名と位置を調べよう。位置は白地図の番号を書きましょう。

都道府県章	都道府県名	位置(番号)	都道府県章	都道府県名	位置(番号)
					
					
					
					
					
					
					
					

※位置(番号)は川越市社会科副読本研究委員会作成の「社会科白地図帳」を基にする。

各時代の主な出来事を背景に各時代を大きくとらえよう

年 組 番 氏名

古代には、どんな出来事があり、歴史上の人物がいただろう。時代毎にまとめよう。

・出来事（年）

古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代

・歴史上の人物

古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代

・出来事の起きた場所など — 歴史における地名

古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代

・文化名と特色

古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代

・必要な地図・絵図・統計・資料

--

日本と近隣諸国との関わりをとらえよう

◎古代を振り返ろう

年 組 番 氏名

海外の様子	日本の出来事		文化的な特色
<p>5世紀頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 6つの国を調べ、それぞれを色分けしよう。 	古墳時代	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアなどの諸外国との関係の出来事を調べ、年表にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化的な出来事を調べ、年表にしよう。
<p>8世紀頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 8つ国を調べ、それぞれを色分けしよう。 シルクロードを記入しよう。 	飛鳥時代		
<p>11世紀頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 5つの国を調べ、それぞれを色分けしよう。 	奈良時代		
<ul style="list-style-type: none"> 都の位置や歴史的な出来事の起きた場所(地名)を調べ、歴史地図を作ろう。 	平安時代	<p>「つまりこの時代は・・・」</p>	

【算数・数学科】

1 算数・数学科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）の偏差値より

- ・小学校第4・5学年では、ここ5年間において平均値の50を上回っている。第6学年では、平成24、25年度に平均値を下回り、中学校第1学年では平成25年度に平均値を下回り、どちらの学年も、ここ5年間で一番低い数値となっている。
- ・中学校においては例年50前後であるが、年によっては50を下回ることもある。全体的に学年が進むにつれて、偏差値が低下する傾向が見られる。

(2) 小学校の傾向

- ・第3学年の内容では、数直線上の小数、分数を読む問題で、通過率が全国と比較し5ポイント程度下回っている。第4学年の内容では、面積の単位換算の問題や1組の三角定規の組み合わせで表される角の大きさについての問題で、全国を10～15ポイント下回っている。
- ・第5学年の内容では、約数や最小公倍数の問題、分数の加法減法の問題、ひし形と台形的面積を求める問題で、全国を10～20ポイント下回っている。第6学年の内容では、分数の乗法の問題、四角柱の体積を求める問題、比例・反比例の問題で、全国を7～9ポイント下回っている。

(3) 中学校の傾向

- ・中学校では全国通過率と川越市通過率を比較すると、川越市通過率が上回っているものの、全体の通過率自体は50%を下回っている。大領域別に見ると、「数と式」「資料の活用」領域では全国を上回っていて、「数と式」領域では大きく上回っているものの、「図形」「関数」領域では下回っていて、特に「関数」領域である比例と反比例において、大きく下回っている。

(4) 「川越市中学生学力調査」の結果から

- ・領域別に見ると、「数と式」領域では70%前後の得点率であるが、「図形」領域が30%前後、「関数」領域が50%前後、「資料の活用」領域が30%前後であった。特に「図形」領域は無答率が30%を超えるものがあり、比較的内容が難しかったこともあり、見通しが立てられなかった生徒が多い傾向がある。

2 算数・数学科における課題

(1) 分数の意味や表し方についての指導

数としての分数の理解や小数と分数との関係の理解に課題が見られ、数直線などを活用した丁寧な指導が必要である。

(2) 面積や体積の求積の仕方の指導

公式の理解に課題が見られるので、既習の求積可能な図形をもとにして測定の仕方を考えたり公式を導いたりする学習を大切にしたい。

(3) 比例・反比例の指導

二つの数量の変化や対応について、式、表、グラフを関連づけて表現したり考察したりできる能力を伸ばしていくことが必要である。小学校での比例・反比例の学習をもとにして、中学校で、関数の概念の理解が確実となるようにしていきたい。また、それぞれの関数の特徴を、十分に理解できるようにしていきたい。

3 指導の手立て

(1) 小学校

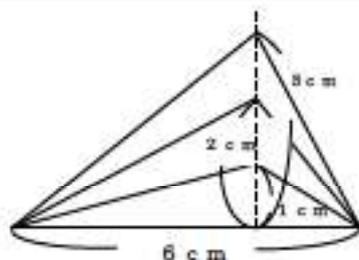
表を用いて、二つの数量の関係の見方を深める指導の工夫

伴って変わる二つの数量の関係については、第5学年で、簡単な場合について比例の関係を指導する。簡単な場合とは、表を用いて一方が2倍、3倍、…になれば、それに伴って他方も2倍、3倍、…になる二つの数量の関係を知ることである。また、第5学年では、第4学年までの学習の上に、表を活用して、伴って変わる二つの数量の関係を考察する能力を高め、関数の考え方を伸ばしていくことがねらいとなっている。

表を活用できるようにするためには、表に数量を当てはめたり、表に並ぶ数値を横に見たり縦に見たりして、二つの数量の対応や変化の仕方の特徴を見つける活動を十分に行うことが大切である。それとともに、見つけた二つの数量の変化の特徴（変わり方のきまり）を使って問題を解決する活動も行い、関数の見方のよさにも気づかせたい。

活動例 三角形の高さと面積の関係について調べよう（第5学年）

底辺が6 cmの三角形があります。
底辺はそのまま、高さを変えると、
面積は、どのように変わるか調べ
ます。
高さが7 cmのときの面積の求め方
を考えよう。



(見通し) 高さと面積の変わり方を表に表して、変わり方のきまりを見つけよう。

高さ (cm)	1	2	3	4	5	6	7
面積 (cm ²)	3	6	9				

考え㉗ 三角形の面積の公式から

$$6 \times 7 \div 2 = 21 \quad 21 \text{ cm}^2$$

考え㉘ 高さが2倍、3倍になると
面積も2倍、3倍になること
から

$$3 \times 7 = 21 \quad 21 \text{ cm}^2$$

高さ	1	2	3	4	5	6	7
面積	3	6	9	12	15	18	

(Diagram annotations: A bracket above the first three columns is labeled '2倍', and a bracket below the last three columns is labeled '3倍'. The value 21 is written above the first three columns and below the last three columns.)

考え㉙ 高さの3倍が面積になっ
ていることから

$$7 \times 3 = 21 \quad 21 \text{ cm}^2$$

高さ	1	2	3	5	6	7
面積	3	6	9	15	18	

(Diagram annotation: A bracket on the right side of the last three columns is labeled '3倍'. The value 21 is written to the left of the last three columns.)

問① 高さが23 cmになるときの面積を求めよう。

問② 面積が87 cm²になるときの高さを求めよう。

比例の関係を用いて問題を解決できるようにするための指導の工夫

第6学年では、これまでに指導してきた数量関係についての見方をまとめるために、伴って変わる二つの数量の中から特に比例の関係にあるものを中心に考察し、関数の考えを伸ばすことをねらいとしている。また、比例の関係を問題の解決に利用して、関数の考えを深めることもねらいとしている。

児童はこれまでに、伴って変わる二つの数量の関係について、その対応や変化の仕方の特徴について、表などを用いて調べることを中心に学習してきた。第6学年では、比例の関係が有効に用いられる場面を用意し、比例の関係をを用いると手際よく問題を解決することができるなどのよさを味わわせることで、日常の問題の解決に進んで比例の関係を活用する態度を育てたい。

活動例 比例の性質を使って問題を解こう（第6学年）

比例の性質を用いると、全ての数を数えたり、長さを測ったりしなくても、全ての数や長さを求めることができる。そこで、紙の枚数と、重さや厚さが比例していることに気付かせ、そこから計算によっておよその数を求めさせたい。

児童はこれまでに比例の性質や、グラフなどは学習しているが、枚数以外の条件を与えないと難しい問題である。そこで、児童の実態に応じて、『枚数を数えてはいけませんが、他のことならはかってもいい。』などの声かけをし、重さや厚さ（高さ）に着目させる。

問題

コピー用紙の束があります。全ての枚数を数えずにこのコピー用紙のおよその数を求めましょう。

課題

全ての枚数を数えずに、およその数を求める方法を考えよう。

本単元を進めるにあたり、児童からは

- ① 重さを量る A4コピー用紙1枚約4g
- ② 厚さ（高さ）を測る A4コピー用紙1枚約0.1mm
- ③ 体積を求める

という考えが出てくると予想される。体積は長さを測ることで求めることができる。この考えは、厚さ（高さ）を測ることと似ているので、①と②の方法で求めさせる。また、1枚の重さを量ったり、厚さを測ったりすることは難しいので、10～30枚程度の重さや厚さをもとに考えていくことにも気付かせたい。

(2) 中学校

比例や反比例の関係を見分けるための指導の工夫

中学校第1学年では、小学校での比例や反比例の学習をさらに深め、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の仕方に着目し、関数関係の意味を理解できるようにする。

関数関係を見出すには、表、式、グラフに表すことが有効である。表、式、グラフに表すことは、小学校でも学習しているが、中学校では式が文字を用いて一般化されたり、グラフが負の範囲も扱うようになってきたりと、内容が深まっている。

学習の中では、表、式、グラフそれぞれの特徴を整理して理解をするとともに、表から式、式からグラフといったように、お互いに関連付けて捉えていくことが大切である。生徒が目的に応じて、表、式、グラフを使い分けていけるよう指導をしていきたい。

また、具体的な事象を比例か反比例かそれ以外の関数かを判断する課題は、単元のまとめの問題として扱うことは多いが、1時間の授業の課題として扱われないものもある。生徒に表、式、グラフを用いて説明させることで、より理解を深められるように指導したい。

活動例 x と y の関係を見分けよう。(第1学年)

① 表から考える

ア)	<table border="1"><tr><td>x</td><td>...</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>...</td></tr><tr><td>y</td><td>...</td><td>0</td><td>90</td><td>180</td><td>270</td><td>360</td><td>450</td><td>540</td><td>630</td><td>...</td></tr></table>	x	...	0	1	2	3	4	5	6	7	...	y	...	0	90	180	270	360	450	540	630	...		
x	...	0	1	2	3	4	5	6	7	...															
y	...	0	90	180	270	360	450	540	630	...															
イ)	<table border="1"><tr><td>x</td><td>...</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>...</td><td>12</td><td>...</td></tr><tr><td>y</td><td>...</td><td>×</td><td>12</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>2.4</td><td>2</td><td>...</td><td>1</td><td>...</td></tr></table>	x	...	0	1	2	3	4	5	6	...	12	...	y	...	×	12	6	4	3	2.4	2	...	1	...
x	...	0	1	2	3	4	5	6	...	12	...														
y	...	×	12	6	4	3	2.4	2	...	1	...														
ウ)	<table border="1"><tr><td>x</td><td>...</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>...</td></tr><tr><td>y</td><td>...</td><td>24</td><td>23</td><td>22</td><td>21</td><td>20</td><td>19</td><td>18</td><td>17</td><td>16</td><td>...</td></tr></table>	x	...	0	1	2	3	4	5	6	7	8	...	y	...	24	23	22	21	20	19	18	17	16	...
x	...	0	1	2	3	4	5	6	7	8	...														
y	...	24	23	22	21	20	19	18	17	16	...														
エ)	<table border="1"><tr><td>x</td><td>...</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>...</td></tr><tr><td>y</td><td>...</td><td>0</td><td>250</td><td>500</td><td>750</td><td>1000</td><td>1250</td><td>1500</td><td>1750</td><td>2000</td><td>...</td></tr></table>	x	...	0	1	2	3	4	5	6	7	8	...	y	...	0	250	500	750	1000	1250	1500	1750	2000	...
x	...	0	1	2	3	4	5	6	7	8	...														
y	...	0	250	500	750	1000	1250	1500	1750	2000	...														

② 式から考える

y を、 x を使った式で表す。

ア) $y = 90x$ イ) $y = \frac{12}{x}$ ウ) $y = 24 - x$ エ) $y = 250x$

$y = ax$ の形で表せるアとエが比例。 $y = \frac{a}{x}$ の形で表せるイが反比例。

③ グラフから考える。

原点を通る直線で表せるかどうか。

※グループで発表する等、説明させる機会を作る。

【理科】

1 理科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力調査 (NRT) の偏差値より

- ・小学校では、第4学年は平成20年度から平成25年度まで、平均値の50を上回っていることが多いが、第5・6学年は平均値を下回っている。
- ・中学校では、第1・2学年ともに平均値を下回っている。
- ・学年が進むにつれ、全国を下回っている領域数が増加する傾向が見られる。

(2) 小学校の傾向

- ・第4・5学年では、全国正答率を大きく下回っている中領域はないが、第6学年（内容は第5学年）では、「植物の発芽・成長・結実」が大きく下回っている。

(3) 中学校の傾向

- ・全国と川越市の大領域及び中領域の正答率を比較すると、第1・2学年ともに下回っている。
- ・第1学年（内容は小学校第6学年）の「析出する水溶液」「気体の溶けた水溶液」、第2学年（内容は第1学年）の「圧力の計算」「質量パーセント濃度」において、通過率が30%以下となっている。

(4) 川越市中学校学力調査において

通過率30%を下回った小問内容は以下の通りである。

第1回	○露点、水蒸気量（雲のでき方と水蒸気） ○細胞の呼吸（葉、根、茎のつくりとはたらき） ○並列回路、熱量、直列回路（電流の性質）
第2回	○光の性質（光の世界） ○化学式（物質どうしの化学変化） ○長石、黒雲母、石英、石基（火をふく大地） ○分離の法則（遺伝の規則性と遺伝子） ○浮力（いろいろな力の世界）○重力の分力（力の規則性）

この分析結果をもとに、学習内容が定着するような指導方法の改善・定着を図っていく必要がある。

2 理科における課題

(1) 小学校では、エネルギーについての基本的な見方や概念が定着していない。

児童には「風」、「ふりこ」、「てこ」の学習において、実験結果から規則性を見いだすことをせず、計算だけで結果を求めようとする傾向がみられる。そこで、実感を伴った活動を通して、エネルギーについての基本的な見方や概念の定着を図る。

(2) 中学校では、生徒の思考の継続化が図れていない。

原因として、小学校での既習内容や日常の現象と関連づけて考えられないために、知識が断片的な状態になっていると考えられる。そこで、生徒の思考の継続化が図れるようにするために、日常生活の中で見られる現象と実験結果などを関連づけて考えさせることで、思考の継続化や知識の定着を図る。

3 指導の手立て

(1) 小学校

エネルギーについての基本的な見方や概念を定着させるためにどのように指導したらよいか。

① 小3 「風やゴムの働き」

風の強さを比較して調べ、見出した問題を興味・関心をもって追究したり、ものづくりをしたりして、それらの性質や働きについて見方や考え方を養う視点で指導を行う。

「風の強さを変えてみよう。」

「風の強さを変えると車の速さはどうなるのかな？」

風を当てたときの物の動く様子を比較しながら、風の強さによって物の動く様子に違いがあることから、風の力は物を動かすことができることをとらえさせる。

指導に当たっては、風を受けたときの体感をもとにした活動を重視する。また、風の強さと物の動きとの関係を表に整理するようにする。

② 小5 「ふりこの運動」

ふりこ作りや振り子の自由操作を個人活動でたっぷり体験し、気づきや疑問を引き出して問題作りに取り組みさせる。実験の段階では、児童一人一人が見通しをもって主体的・計画的に、また、正確に操作できることに重点を置き、指導を行う。

「音楽に合わせてふりこを振り、曲のテンポに合わせるために変えたい条件を考えよう。」

- ・糸の長さを変えると時間が変わりそうだ。
- ・糸を短くすると時間が短くなりそう。
- ・大きく振ると、時間を長くすることができそう。
- ・おもりの重さを重くするとゆっくり振れそう。

③ 小6 「てこの規則性」

加える力を視覚と手応えで感じられる実験、いろいろな棒でもこの規則性が成り立つことを確かめる実験を取り入れ、予想や根拠を言葉や図で表現し、推論する活動を取り入れ、指導を行う。また、てんびんやてこの規則性を利用した道具にも目を向けさせるようにしながら指導する。

「重さが同じ点は1つであるはずなのに、どうしてたくさんあるのかな？」

棒の端から順に手応えを感じながら、基準となるおもりより軽い、重い、同じと感じる点にシールを貼らせる活動から、「手応え」よりも客観的な「数字」で表せるおもりを使った実験に移していく。

(2) 中学校

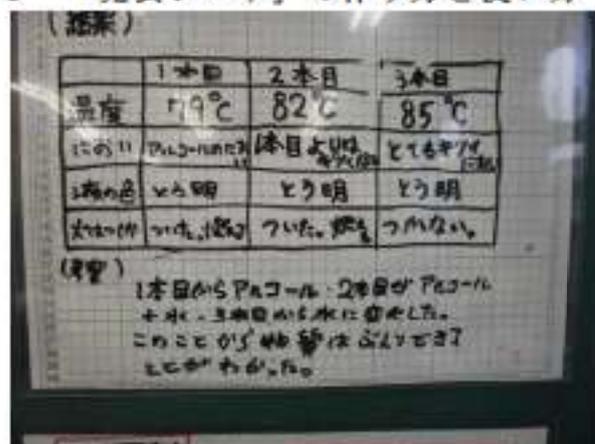
既習内容や日常の現象と関連づけて、思考の継続化や知識の定着を図る指導の工夫

「埼玉県中学校教育課程指導資料 理科編」では、「問題発見、実験の計画と実施、器具などの操作、記録、データの処理、規則性の発見など科学的に探究する活動を行う。」とある。この活動の時間の確保と環境を整えることが重要である。

手立て1 生徒の思考を継続するための「発表シート」の活用

授業の展開の中で、生徒の思考が行われる場面として、次のようなときが考えられる。①課題について、予想するとき。②実験・観察の方法を考えるとき。③実験・観察結果から考察するとき。その際に「発表シート」の活用が効果的となる。「発表シート」により、他の人の考えがわかるとともに、自分の考えを発表することをおして、考えを整理することができる。その結果、思考が継続し、広がりを見せることにつながる。

- 1 小単元名 物質の姿と状態変化
- 2 本時の目標：赤ワインを加熱して蒸留し、得られる液体の性質を調べる。そして、取り出した液体の性質と、エタノールと水の沸点の違いから、取り出した液体がエタノールであることを見出す。
- 3 「発表シート」活用場面
 - (1) 課題について、予想を立てる・・・赤ワインを加熱すると、出てくる物質は何だろうか⇒エタノールと水の混合物、エタノールと水
 - (2) 課題を解決する実験方法を考える・・・赤ワインの蒸発、蒸留
 - (3) 実験結果と考察を書く・・・赤ワインのにおい・色・沸騰する温度の変化、実験からわかったこと
- 4 「発表シート」の作り方と使い方



(1) 作り方

A3サイズの塩化ビニルシートに工作用紙を周りのみ、両面テープで貼り付け、プリントも挟めるように袋状にする。裏にマグネットシートをはる。

(2) 使い方

ア 課題に対する予想や、実験結果、考察などを班ごとにまとめて、マーカーペンで書く。

- イ 班ごとに黒板に貼る。
ウ 全班黒板に貼り終わったら、発表し、質問も受け付け、実験の考察を深める。
エ 教師が評価したり、まとめるときに活用できる。また、他の組の結果と比べられる。

手立て2 学習パターンを構築するためのプリントの活用

生徒の思考の継続の基本は、毎日の授業にある。授業の中で、生徒の思考を継続し、探究心を深めていくことが重要である。それには、生徒が学習パターンを身につけ、自主的に取り組むプリントの活用が必要である。

単元名○年 名前	5 実験結果	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項（小○年）日常生活 小学校の既習内容や、日常生活の関連事項にふれる内容 ・プリント終了後、集めて、評価し、返却する。 ・学期ごとに、プリントを製本して、自作の参考書を作る。 ・高校の学習内容等にふれる。
1 既習事項(小○年) 日常生活	6 考察	
2 課題	7 まとめ	
3 予想		
4 実験・観察	8 発展	

手立て3 デジタル教科書の活用

授業の展開の中で、デジタル教科書にある映像や写真を示したり、ソフトを活用した実験・観察をしたりすることで、生徒の興味・関心が増し、かつ思考の継続と広がりが可能になると考える。使用に当たっては、時間の確保や時間配分を十分に考える必要がある。

- 1 小単元名 音の世界
- 2 実験・観察を通して、音の大小は振幅の大小によって変わることや、音の高低は振動数の多さによって変わることを見出す。

主な学習活動		左記の学習活動において、デジタル教科書を効果的に活用する。
導 入	○弦楽器での大きい音や高い音の出し方を考える。 【課題】音の大小や高低と振動の関係は？	
展 開	○はじく強さ、弦の長さや張り方を変えたときの弦の振動の様子を観察する。 ○はじく強さ、弦の長さや張り方を変えたとき音をオシロスコープに入力する。	
ま と め	○音の大小や高低と弦の振動との関係をまとめる。 ○弦の振動が空気を伝わり、同心円状に広がっていることを理解する。	

手立て 4 理科室等の掲示の工夫

理科室に入ると、生徒の科学的思考の継続が続くような掲示の工夫が必要である。その方策として、次のようなことが考えられる。①小・中・高のつながり掲示（生徒の思考の継続を呼び起こし、高校の学習へつなげる。）②自然事象や日常生活との関連掲示（生徒の思考を自然現象や日常生活で起きている事象に継続させる。）③体験的な掲示物や展示物（簡易プラネタリウムの作成、太陽系の掲示物作成、岩石や化石の展示、動物骨格の展示）④科学展出品作品の展示（理科の学習パターンを学ぶ。）

【英語科】

1 英語科における本市の傾向

- (1) 教研式標準学力検査（NRT）では、平成20年度以降、偏差値50を超えている。4領域（書く〈W〉・話す〈S〉・聞く〈L〉・読む〈R〉）は、今年度も昨年度同様、すべてにおいて全国平均を上回ることができた。しかし、「手紙文」の理解、「長文読解」、「語順整序」に課題が残る。すべての項目について共通して言えることは、「書くこと」に苦手意識を持っているということである。

- (2) 川越市中学生学力調査において、第1回、第2回を通して、「英作文」「長文読解」の正答率が低かった。記述させる問題に苦手意識がある。「対話文」の問題で無回答率が20%以上ある。この原因として、基本的な文法事項、単語力の不足が考えられる。4領域バランスよく学習できているが、「読むこと」「書くこと」にやや苦手意識がある。

2 英語科における課題

- (1) 適切な表現等を用いて英文が書けるように書く力をつける。
本市の傾向から、英語を書くことに苦手意識があることが伺える。
「書く力」を育成するために、単語や基本文の練習を習慣化する。基礎基本を定着することで、自分の意見や考えや適切に表現できるようになる。

- (2) まとまりのある英文を読んで理解できるよう、読む力をつける。
諸検査の結果から、まとまりのある英文を読み取る機会が不足していると考えられる。「読む力」を伸ばすために、身近な話題等を扱った英文に数多く触れていく。これらの活動を継続して行うことで、まとまりのある英文を読む力の育成を図る。
また、単語の意味や使い方を確実に理解して語彙力をつけられるよう、指導法の工夫が必要である。

3 指導の手立て

(1) 書く習慣をつけさせるための単語の書き取り指導の工夫

[該当学年：全学年]

【学力分析と指導の手立て11 英語科 指導資料(1)】

英単語練習シートを活用して教科書で学んだ英単語の書き取り練習を行う。単語を書けるようになるためには、まず読めなければならない。そのために、はじめに、読む練習を行う。つづりと読み方に注意して発音した上で書き取り練習を行うようにする。

教科書の必須単語の読み、書き取り練習を繰り返し行い、単語力の定着を図り、条件作文等の表現活動に対応することができるようにする。また、その単語を使った空所補充等の問題演習を行い、文法事項、言語材料の定着を図る。

(2) 説明文の読解を通して英文の要旨をつかむ指導の工夫

[該当学年：中学3年]

【学力分析と指導の手立て11 英語科 指導資料(2)】

タイトル：「Mt. Everest-Mom」

私たちの住む川越に在住の登山家である田部井淳子さんについての物語を読み、身近で親しみやすい英文から、既習の単語や表現を振り返りながら英文の読解に取り組ませる。また、物語を通じて出てきた表現や構文を理解させる。文末にQ&AやT-F checkを入れており、本文の要旨をつかむ指導を行う。

教育に関する3つの達成目標推進研究委員会

I 研究の概要

1 目的

教育に関する3つの達成目標について本市の実態に即した研究を行い、目標の達成に向けた教育活動を活性化させ、学力向上・規律ある態度の育成・体力向上のバランスのとれた成長に資する資料を作成する。

2 研究の方針

- (1) 「生きる力と絆の埼玉教育プランー埼玉県教育振興基本計画ー」に示された施策指標の達成状況を踏まえるとともに、平成25年度指導の重点・努力点及び川越市教育振興基本計画に基づく。
- (2) 本市の達成状況に基づき、指導資料、ワークシート等、指導方法の工夫改善に資する資料を作成、提供する。
- (3) 小・中学校9年間の学びと育ちの連続性を視野に入れた取組を推進する。
- (4) 既存資料の活用、修正と各種委員会との連携を図る。

3 研究の経緯

回	期 日	内 容
第1回	7月12日(金)	・委嘱書交付 ・全体会(研究方針、実施計画) ・各部会(研究内容の検討、役割分担)
第2回	7月下旬から8月上旬	・各部会(研究内容、作成資料の検討)
第3回	8月下旬から9月下旬	・各部会(作成資料の検討、修正)
第4回	11月29日(金)	・全体会、各部会(研究紀要の検討)

II 本市の現状と課題

今年度の効果の検証結果を昨年度と比較すると、学力の達成率はほぼ同様であり、規律ある態度、体力は向上している。

「読む・書く」(達成率の平均は小学校 94.4% 中学校 91.7%)

- ・「書く」の達成率は小学校 93.7%、中学校 93.5%と向上した。
- ・「段落の内容やつながりを考えながら読み取ること」「キーワードの把握」等が引き続き課題である。

「計算」(達成率の平均は小学校 95.3% 中学校 90.2%)

- ・「小数の加法、減法」「速さ」「円の面積」「角柱の体積」で達成率が向上した。
- ・「整数の除法」「小数の乗法、除法」「三角形や平行四辺形の面積」「文字式」「方程式」「二次方程式」等が引き続き課題である。

「規律ある態度」

(80%を上回った項目数は小学校 72項目中 69項目 中学校 36項目中 34項目)

- ・小学校では「時刻を守る」「ていねいな言葉遣い」「話を聞き、発表する」が中学校では「靴そろえ」「整理整頓」「返事」「掃除」が、全学年で昨年度より達成率が上回った。
- ・「靴そろえ」は児童生徒、保護者とも昨年度より達成率が上回った。

「体力」(総合評価 小学校 79.0% 中学校 84.6%)

- ・県平均を上回る項目は増加傾向にある。
- ・反復横とび、立ち幅とびが引き続き課題である。

課題については、小・中学校共通の項目も多い。達成率の低い項目について、連携を図りながら具体的な手立てを講じる必要がある。

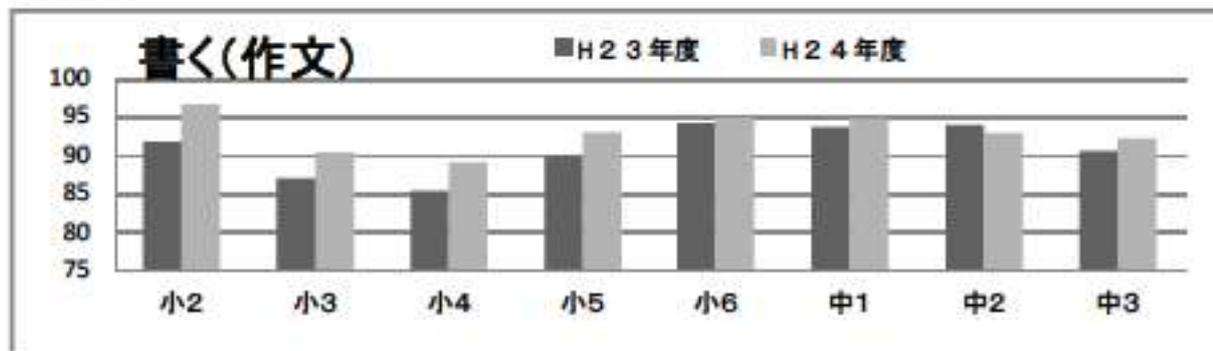
Ⅲ 各部会の取組

【読む・書く部会】

1 研究の概要

本委員会「読む・書く」部会では、昨年度、「書くこと」に焦点化したワークシートを作成し、市内に発信した。各校で活用した結果、小学校2～6年、中学校1年、3年で達成率の向上が見られた。

しかし、依然として95%の目標値には届かない学年が多く、今年度も引き続き「書くこと」に焦点化した資料を作成した。作成にあたっては、模範解答に教師の具体的な言葉がけの例や指導のポイントを加え、段落意識や理由を表す表現の定着を図れるようにした。



「書くこと」の指導ポイント

① 1行の文章は、必ず「主語」を明示する。

② 1行の文章は、必ず「述語」を明示する。

③ 1行の文章は、必ず「目的語」を明示する。

④ 1行の文章は、必ず「修飾語」を明示する。

⑤ 1行の文章は、必ず「接続詞」を明示する。

⑥ 1行の文章は、必ず「助詞」を明示する。

⑦ 1行の文章は、必ず「助動詞」を明示する。

⑧ 1行の文章は、必ず「終助詞」を明示する。

⑨ 1行の文章は、必ず「感動詞」を明示する。

⑩ 1行の文章は、必ず「擬声詞」を明示する。

⑪ 1行の文章は、必ず「擬態詞」を明示する。

⑫ 1行の文章は、必ず「引用符」を明示する。

⑬ 1行の文章は、必ず「括弧」を明示する。

⑭ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑮ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑯ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑰ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑱ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑲ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑳ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

「読むこと」の指導ポイント

① 1行の文章は、必ず「主語」を明示する。

② 1行の文章は、必ず「述語」を明示する。

③ 1行の文章は、必ず「目的語」を明示する。

④ 1行の文章は、必ず「修飾語」を明示する。

⑤ 1行の文章は、必ず「接続詞」を明示する。

⑥ 1行の文章は、必ず「助詞」を明示する。

⑦ 1行の文章は、必ず「助動詞」を明示する。

⑧ 1行の文章は、必ず「終助詞」を明示する。

⑨ 1行の文章は、必ず「感動詞」を明示する。

⑩ 1行の文章は、必ず「擬声詞」を明示する。

⑪ 1行の文章は、必ず「擬態詞」を明示する。

⑫ 1行の文章は、必ず「引用符」を明示する。

⑬ 1行の文章は、必ず「括弧」を明示する。

⑭ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑮ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑯ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑰ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑱ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑲ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

⑳ 1行の文章は、必ず「省略号」を明示する。

- ★ 小2と中3では、新しい傾向の問題に合わせたワークシートを新たに作成した。
- ★ 各学年の「指導のポイント」には、指導する際参考となる教師の言葉がけ例を掲載した。

2 研究の内容

(1) 小学校

指導のポイントを「教師が行う言葉がけの例」として示し、指導の際、読み上げることで共通の指導ができるように作成した。

①低学年

教師が行う言葉がけの例

指導のポイントと模範解答

①	「わがままな動物は、さかさまに寝て、さかさまに歩きます。」
②	「わがままな動物は、さかさまに寝て、さかさまに歩きます。」
③	「わがままな動物は、さかさまに寝て、さかさまに歩きます。」

指導のポイントと模範解答

①	「わがままな動物は、さかさまに寝て、さかさまに歩きます。」
②	「わがままな動物は、さかさまに寝て、さかさまに歩きます。」
③	「わがままな動物は、さかさまに寝て、さかさまに歩きます。」

児童取組例

- 答え合わせでは、④のカードを一斉音読し、続けて①の作文も一斉音読させた。句点や読点も声に出して読ませた。
- ②③についても同様に繰り返し音読させた。句読点や誤字、脱字を意識させるようにした。

②中学年

《指導のポイントと模範解答から》教師が行う言葉がけの例

- クラスの友だちに、好きな動物を文章に書いてみましょう。
- ① 次のことに注意して文章を書きましょう。
 - ② 二つの段落で書きましょう。
 - ③ ②の二つの段落とも、「文字下げ」で書きはじめます。また、段落の終わりは、マスを空けて行を変えます。
 - ④ 一つ目の段落には、自分が好きな動物を書きましょう。
 - ⑤ 「イ」「ほくが（わたしが）好きな動物は、○○です。」のように、聞かれたことを繰り返して、「イ」は、「○○です。」と書きます。
 - ⑥ 二つ目の段落には、一つ目の段落で書いたものが好きなわけやその動物の様子などを書きましょう。
 - ⑦ 「ウ」わけを書くときは、「好きなわけは、○○からです。」のように「ウ」からです。」と書きます。第二段落の初めに書きます。
 - ⑧ 「エ」様子や気持ちを書く場合は、行を変えずに続けて書きます。
 - ⑨ 句点（。）や読点（、）に気をつけて四行より多く書きましょう。
 - ⑩ 又の終わりに「」を書きます。四行より多く書きます。

①	「わがままな動物は、さかさまに寝て、さかさまに歩きます。」
②	「わがままな動物は、さかさまに寝て、さかさまに歩きます。」
③	「わがままな動物は、さかさまに寝て、さかさまに歩きます。」

児童取組例

- 書き終わったら自分で見直しをする習慣をつけさせるために、「注意すること」の各項目ができていたら□に○を書かせた。
- 繰り返し取り組むことにより、どんな課題でも書き方のパターンを身に付ければ、書けることを児童が実感できた。

③高学年

(指導のポイントと模範解答から) 教師が行う言葉がけの例

- ① ①二つの段落を書きましょう。
- ② ②二つの段落とも、一文字ずつ書きはじめます。また、段落の終わりは空けて行を空けます。
- ③ ③二つの段落には、同の教科が好きなのかを書きましょう。
- ④ ④「わたしは(ほくが)好きな教科は、○○です。」のように、聞かれていることを繰り返して「は、○○です。」と書きます。
- ⑤ ⑤二つの段落には、なぜその教科が好きなのか、理由をくわしく書きましょう。
- ⑥ ⑥理由を書くときは、「好きな理由は、○○です。」のように書きます。理由は、自分の経験や興味などと結びつけて書きます。理由をいくつか挙げる場合もあります。
- ⑦ ⑦理由の後に、様子や自分の思い、考えなどを表す加えるように書きます。
- ⑧ ⑧例えば()や()に数字を入れて八行以上十行書きましょう。文末には「。」を付けます。八行以上書きます。

(児童取組例)

学年 2年	月 10月	日 10日	氏名 山田 太郎
<p>①二つの段落を書きましょう。</p> <p>②二つの段落とも、一文字ずつ書きはじめます。また、段落の終わりは空けて行を空けます。</p> <p>③二つの段落には、同の教科が好きなのかを書きましょう。</p> <p>④「わたしは(ほくが)好きな教科は、○○です。」のように、聞かれていることを繰り返して「は、○○です。」と書きます。</p> <p>⑤二つの段落には、なぜその教科が好きなのか、理由をくわしく書きましょう。</p> <p>⑥理由を書くときは、「好きな理由は、○○です。」のように書きます。理由は、自分の経験や興味などと結びつけて書きます。理由をいくつか挙げる場合もあります。</p> <p>⑦理由の後に、様子や自分の思い、考えなどを表す加えるように書きます。</p> <p>⑧例えば()や()に数字を入れて八行以上十行書きましょう。文末には「。」を付けます。八行以上書きます。</p>			
<p>わたしの好きな教科は、算数です。理由は、お母さんがめい物好きという事もあり、ぼしてわたしも知れず好きになりました。算数は、毎にやいばうが好きなすぬめいぐるみにもお洋服を作った事があります。</p>			

○ 行数が増えるので、理由をいくつか挙げる場合もある。また、理由「特に○○なのは・・・」等自分の気持ちや様子などを付け足して書くように指導した。

○ 一斉指導した後、ワークシートを回収して、「注意すること」ができていないか、誤字脱字はないか、表現のおかしな点はないかを教師が一人ずつ確認し、朱書きを入れた。

(2) 中学校

- ・自己採点できるように、「模範解答とポイント」を全員に配布するようにした。
- ・「模範解答とポイント」には、採点のポイントを挙げ、解答用紙のチェック欄にチェックできるようにした。
- ・「模範解答とポイント」の作文の中の必要な箇所に、吹き出しや矢印等で、チェック項目を示した。

①第2学年

模範解答とポイント

学年 2年	月 10月	日 10日	氏名 山田 太郎
<p>①二つの段落を書きましょう。</p> <p>②二つの段落とも、一文字ずつ書きはじめます。また、段落の終わりは空けて行を空けます。</p> <p>③二つの段落には、同の教科が好きなのかを書きましょう。</p> <p>④「わたしは(ほくが)好きな教科は、○○です。」のように、聞かれていることを繰り返して「は、○○です。」と書きます。</p> <p>⑤二つの段落には、なぜその教科が好きなのか、理由をくわしく書きましょう。</p> <p>⑥理由を書くときは、「好きな理由は、○○です。」のように書きます。理由は、自分の経験や興味などと結びつけて書きます。理由をいくつか挙げる場合もあります。</p> <p>⑦理由の後に、様子や自分の思い、考えなどを表す加えるように書きます。</p> <p>⑧例えば()や()に数字を入れて八行以上十行書きましょう。文末には「。」を付けます。八行以上書きます。</p>			
<p>わたしの好きな教科は、算数です。理由は、お母さんがめい物好きという事もあり、ぼしてわたしも知れず好きになりました。算数は、毎にやいばうが好きなすぬめいぐるみにもお洋服を作った事があります。</p>			

模範解答とポイント

生徒取組例

学年 2年	月 10月	日 10日	氏名 山田 太郎
<p>①二つの段落を書きましょう。</p> <p>②二つの段落とも、一文字ずつ書きはじめます。また、段落の終わりは空けて行を空けます。</p> <p>③二つの段落には、同の教科が好きなのかを書きましょう。</p> <p>④「わたしは(ほくが)好きな教科は、○○です。」のように、聞かれていることを繰り返して「は、○○です。」と書きます。</p> <p>⑤二つの段落には、なぜその教科が好きなのか、理由をくわしく書きましょう。</p> <p>⑥理由を書くときは、「好きな理由は、○○です。」のように書きます。理由は、自分の経験や興味などと結びつけて書きます。理由をいくつか挙げる場合もあります。</p> <p>⑦理由の後に、様子や自分の思い、考えなどを表す加えるように書きます。</p> <p>⑧例えば()や()に数字を入れて八行以上十行書きましょう。文末には「。」を付けます。八行以上書きます。</p>			
<p>わたしの好きな教科は、算数です。理由は、お母さんがめい物好きという事もあり、ぼしてわたしも知れず好きになりました。算数は、毎にやいばうが好きなすぬめいぐるみにもお洋服を作った事があります。</p>			

生徒取組例

○ 段落の初めは、罫線だけの用紙では、意識して1字分空けるよう指導した。

- 選んだ理由は、消去法でなく積極的にそれを選んだ理由を書いてほしい。内容はチェックの対象ではないのだが、より良い作文が書けるように指導する機会としたい。

②第3学年

生徒取組例

生徒取組例

- 参考資料と自分とを比較しながら自分の意見を述べるように指導した。
- 具体的な体験を、普段から意識してまとめておくことが大切であると指導した。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・小学校では、指導のポイントを「教師が行う言葉がけの例」として示したことで、どの教室でも同様の指導が可能となった。また、短時間で指導ができるようになった。
- ・「教師が行う言葉がけの例」と模範解答により、指導のポイントが明確になり教師間で採点の差が少なくなった。
- ・ワークシートを繰り返し実施することで学習事項の理解が進み、児童生徒が互いに教え合えるようになった。
- ・中学校では、「模範解答とポイント」を配布し、互いに採点し合うことができるので、よりよい表現の方法に気付き、改善しようとする意欲が見られるようになった。

(2) 課題

- ・採点基準以外の事項（誤字、脱字等）については、個別指導を行い、正しい表記や漢字を用いて文章が書けるように一人一人の底上げを図っていく必要がある。
- ・国語主任会等と連携し、さらにワークシートの活用を図っていく。
- ・学校行事を活用して条件作文の書き方の習熟を図ったり、テーマに即した取材、選材の能力を高めたりして、書くことに慣れさせていく。

【計算部会】

1 研究の概要

教育に関する3つの達成目標の検証テストの分析を通して、小数のかけ算やわり算、方程式など本市児童生徒の苦手としているところが明確になってきている。そこで、本委員会計算部会では、つまずきやすい問題の習熟を図るため、例年正答率が低い問題を中心とした「パワーアッププリント」を作成した。

活用にあたっては、参考資料として次のような「資料作成の意図」を作成した。

【資料作成の意図】

パワーアップ プリント

教育に関する3つの達成目標 計算部会作成

教育に関する3つの達成目標の検証テストの分析を通して、本市児童生徒のちょっと苦手としているところがわかってきました。そこで、例年、正答率があまりよくない問題を中心とした「パワーアッププリント」を、小学校1年生用から中学校3年生用まで作成しました。いつもつまずいていたところをできるようにして、さらにパワーアップしてほしいと願って作っています。ぜひ御活用ください。

朝の時間などに繰り返し行います。

一斉に始めて、何分か後に、すぐに先生と答え合わせをします。基本的な問題ばかりですが、つまずいている児童生徒が多い問題はぜひ解説をして確認しましょう。同じプリントを数週間後、または翌月などに繰り返し行います。以前できなかったところができるようになったとき、自信が付き、パワーアップします。

授業の余間の時間に使えます。

5分間くらいで実施できます。プリントを多めに印刷して、いつでもできるように教室に置いておくと便利です。

つまずきを見つけることができます。

児童生徒が取り組んだワークシートを見ると、誰が、どこでつまずいているのかを把握することができます。つまずきには、個別に指導すると効果的です。同じワークシートを繰り返すことによってつまずきが解消できたかを確認することができます。



活用の実態

小学校1年生のクラスで、2週間おきに No. 1「数の数列」に関する問題を3回、No. 4「時刻」に関する問題を2回実施したところ、以下のような結果が得られました。繰り返し実施することで、児童自身が自分のつまずいているところを知り、確認することができました。

No.1数列に関する問題	1回目	2回目	3回目
クラス正答率	92.1%	97.3%	98.8%

No.4時刻に関する問題	1回目	2回目
クラス正答率	89.4%	93.3%

【つまずきが見られた児童について】
児童AのNo.1正答数 1回目4問→2回目8問→3回目10問
児童BのNo.4正答数 1回目3問→2回目5問

また、中学校で朝の時間を使って実施し、正答率が90%に満たない生徒を対象に補習を行い、再度テストを行ったところ、各学年とも20～30ポイントの正答率の向上が見られました。

まだ、何人かつまずいているなあ・・・



2 研究の内容

(1) パワーアッププリントの特徴

例年、正答率が低い問題を中心に集め、作成したワークシートである。例えば、小学校1年では、繰り下がりのない「 $16 - 3$ 」などの計算の方が、繰り下がりのある計算よりも正答率が低いという結果が出ている。このような問題を多く取り入れている。プリントには学年は入れず、どの学年の児童生徒でも活用できるようにした。

小1		小4	
<p>パワーアッププリント NO.3</p> <p>ひきざんを しましょう。</p>		<p>パワーアッププリント NO.1</p> <p>次の計算を しましょう。</p>	
(1) $16 - 4$	(11) $16 - 9$	(1) $80 \div 2$	(2) $80 \div 20$
(2) $10 - 6$	(12) $15 - 3$	答え <input type="text"/>	答え <input type="text"/>
(3) $15 - 9$	(13) $16 - 8$	(3) $60 \div 3$	(4) $60 \div 30$
(4) $10 - 7$	(14) $17 - 2$	答え <input type="text"/>	答え <input type="text"/>
(5) $14 - 8$	(15) $12 - 8$	次の計算を しましょう。筆算は <input type="text"/> の中に 書き しましょう。	
(6) $15 - 6$	(16) $16 - 5$	(5) $56 \div 4$	(6) $142 \div 3$
(7) $13 - 2$	(17) $18 - 4$	<input type="text"/>	<input type="text"/>
(8) $15 - 4$	(18) $16 - 3$	(7) $84 \div 21$	<input type="text"/>
(9) $10 - 8$	(19) $12 - 5$	(8) $64 \div 32$	(9) $182 \div 14$
(10) $14 - 9$	(20) $19 - 3$	<input type="text"/>	<input type="text"/>
		(10) $156 \div 13$	<input type="text"/>

平成24年度は、繰り下がりのある計算より繰り下がりのない計算の方が正答率が低い。繰り下がりのあるひき算は2学期の後半の学習で、繰り返し練習して身に付いているが、一の位からひくことができる場合の計算の習熟が不十分であると考えられる。

わり算では、桁数が大きくなるほど正答率が下がっている。自分のできていない部分を知るためにも、パワーアッププリントは有効である。

(2) パワーアッププリントの活用の仕方

一斉にパワーアッププリントに取り組み、集計表を活用してつまづいている児童生徒を把握し、個々の支援を行う。同じプリントを数週間後、または翌月に行い、以前できなかった問題ができていることで自信をつけさせる。

実際に、1回目と2回目を行った集計表が次のものである。

第1回 パワーアッププリント 3年

組 番 名 前

No.1	No.2	No.3	No.4	合計
(1) ○	(1) ○	(1) ○	(1) ○	
(2) ○	(2) ×	(2) ○	(2) ○	
(3) ○	(3) ×	(3) ○	(3) ○	
(4) ×	(4) ×	(4) ○	(4) ○	
(5) ×	(5) ○	(5) ○	(5) ○	
(6) ○	(6) ○	(6) ○	(6) ×	
(7) ○	(7) ○	(7) ×	(7) ×	
(8) ○	(8) ×	(8) ○	(8) ×	
(9) ×	(9) ×	(9) ×	(9) ×	
(10) ×	(10) ○	(10) ○	(10) ○	
計 6	計 5	計 4	計 6	25/40

◆正解した問題には○、間違えた問題には×を記入する。



第2回 パワーアッププリント 3年

組 番 名 前

No.1	No.2	No.3	No.4	合計
(1) ○	(1) ○	(1) ○	(1) ○	
(2) ○	(2) ○	(2) ○	(2) ○	
(3) ○	(3) ○	(3) ○	(3) ○	
(4) ○	(4) ○	(4) ○	(4) ○	
(5) ○	(5) ○	(5) ○	(5) ○	
(6) ○	(6) ○	(6) ○	(6) ○	
(7) ○	(7) ○	(7) ○	(7) ○	
(8) ○	(8) ○	(8) ○	(8) ○	
(9) ○	(9) ○	(9) ○	(9) ○	
(10) ○	(10) ○	(10) ○	(10) ○	
計 10	計 10	計 10	計 10	40/40

◆正解した問題には○、間違えた問題には×を記入する。

1回目の結果と比べてどんな変化がありますか？また、それはどうしてですか？

1回目合計25問正解して25問間違えていた。2回目は全問正解でした。練習したことが生きていて良かった。

解答を作成しているのでプリントアウトし、必要に応じて家庭で繰り返し取り組むこともできる。

3 成果と課題

小学校の成果は概要に示した通りである。

中学校では、全学年で朝の時間を使ってテスト（10問×4日間＝40問）を行い、ほとんどの生徒が90%以上の正答率であった。90%未満の生徒を対象に補習を実施し、数日後、再度テストを行い、集計を行った。補習対象者の正答率は以下の表の通りであった。

パワーアッププリントを行うことにより、基礎基本の学力の定着度を再度把握することができた。また、その結果を踏まえ補習を行うことで、基礎基本の学力の定着を促すことができた。また、補習対象者は、各学年20人前後だったため、個に応じた指導を行うことができた。

1回目	正答率	2回目	正答率
1学年	59.4%	1学年	86.6%
2学年	67.0%	2学年	87.1%
3学年	63.9%	3学年	94.0%

補習後

生徒の感想

- ・補習をして、問題のやり方がわからなかった所が分かるようになった。(26問→39問)
- ・1回目は色々な所でケアレスミスをしてしまい、正確にやるのが大切だと思った。補習に参加してしっかり身に付いたのでよかった。(34問→40問)

補習に参加しなかった生徒も、自分で答え合わせを行い自己評価したことで、2回目のテストではかなり正答率をあげることができた。年に数回、このパワーアッププリントを使って確認テストを実施し、自分の力を振り返ることは基礎基本の学力の定着に有効である。

課題は、すべての内容を取り入れていないため、つまづいている児童生徒にはプリントの内容以外にも、他の内容が習熟できているか確認する必要があることが挙げられる。

【規律ある態度部会】

1 研究の概要

昨年度、本市の「規律ある態度」達成目標「くつそろえ」アンケートでは、児童生徒のおよそ8割が「できる」と回答していた。しかし、保護者対象のアンケートで「している」と回答したのは、およそ4割にとどまり、意識の差が大きい現状である。そこで、学校と家庭で連携した指導の取組が必要であると考え、資料を作成し各校へ提供した。

資料1 資料作成の意図 参照

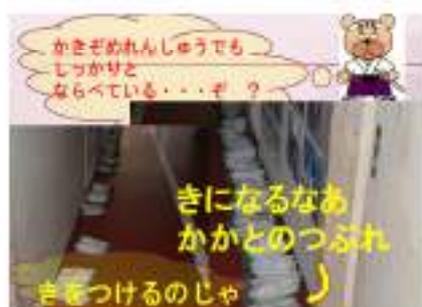
2 研究の内容

(1) 「くつそろえ」のプレゼンテーションソフトを活用した実践

資料2 学校配布用プレゼンテーションソフトの活用 参照

学校のくつばこの様子などをプレゼンテーションソフトを利用し、全校児童へ提示して「くつそろえ」の意識が高まる取組を行った。

- ① くつばこの様子は、よい例を紹介した。
→ 学年ごとに紹介することで、児童は興味をもって見ることができた。
- ② 昇降口のくつばこの様子、特別教室の使用時、プールでの授業時、昇降口の傘立ての様子などを紹介した。
→ まわりの人への気配りが、必要であることを伝えたい。



- ③ 「くつをそろえる」ことの意義や価値を伝えるための内容を加えた。

→ 詩の紹介

- ④ 家庭における実践の意識づけのため、保護者の意見を紹介した。

→ 『いつでも・どこでも』という意識を確実に身につけさせることを意図した。



(4) 中学校での「くつそろえ」の取組

① 「昇降口のくつがきれいに整うことにより、落ちついた学校生活が送れる。」という視点できれいな学校作りに向けた取組を行った。「環境は人を作る。」という言葉通り、生徒と教職員がともに心とむ環境作りに取り組んだ。さらに校内が整理整頓されていれば、学校全体が落ち着いた雰囲気になり、学習効果も高まると考え、師弟同行による学校全体での取組とした。

② くつをそろえるための具体的な取組の手立て

ア 学校朝会での校長講話、学年朝会での教員の話の後、生徒の活動として、学級委員が毎朝、「くつそろえ」のチェックを行った。

イ かかとが踏まれているくつは回収し、代わりに「くつが泣いています。」の張り紙をしてから、改善のための指導を行った。

③ 取組の成果



学年集会後の昇降口の様子

くつそろえについて書かれた五行歌
(五行の詩歌を書く活動を毎週水曜日の朝、学校全体で実施している)

くつのかかとを整える
忘れた！ 戻ろ
あれ、かかとがそろっている
何でだろう
もう習慣になっている

2年生 男子



水泳の授業でのプール入口の様子 集会でのくつの置き方を指導後の様子

(5) くつそろえアンケート

平成24年度の効果検証の規律ある態度の調査「くつそろえ」において、できると回答した児童・生徒はどの学年においても80%台であるのに対し、保護者はどの学年においても40%台であり、意識の乖離が見られる。(表1)

そこで学校での指導に加え、保護者への協力・啓発を含めてくつそろえアンケートを市内小学校で7月と12月に実施した。

表1 平成24年度「教育に関する3つの達成目標」効果の検証結果「規律ある態度」について

質問「ぬいだし物のかかとをそろえることができますか。」できると回答した割合 (川越市)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
児童・生徒	88.8	84.8	87.6	87.3	85.0	84.8	83.4	85.7	85.7
保護者対象	44.1	40.0	40.0	42.2	40.5	43.4	40.0	44.8	48.4

① アンケートの概要

今回のアンケートでは次の5点について調査を行った。

- 1 くつを脱いだ後、すぐに手でそろえた、またはくつ箱にしまった。
- 2 くつを脱いだ後、おおよそ1時間以内に手でそろえた、またはくつ箱にしまった。
- 3 くつを脱ぐ際、くつをそろえるように脱いだ。
- 4 くつを脱いだ後、そろえなかった。
- 5 その他

事象としては1と3が“かかとをそろえる”に合致すると考えられるが、今回は“手をつかってそろえる”という視点を加えて調査を行った。2は、子どもが帰宅後すぐに部屋に入るが、手洗い・うがい等のあと、一息つき、くつをそろえることを想定した。これは、自分で自分の行動を見返すことに視点をあてたものとした。(図1)



図1 調査項目の関係

② アンケートの結果

7月と12月の結果を比べると1が大幅に増えていることが分かる。

(表2) くつをそろえた1、2、3を合わせると79.6%(2をのぞくと66.0%)であった。未回答者がすべて4であったとしてもくつをそろえたのは70.4%(2をのぞくと58.3%)であり、習慣化されつつあることがわかる。

また、回答率が上がっていることから保護者の意識の高まりがうかがえる。

表2 「くつそろえ」アンケートの結果(%)

	1	2	3	4	5	回答率
7月	27.6	15.0	31.5	23.1	2.7	75.2
12月	37.9	13.7	28.1	17.8	2.6	88.4

表3 アンケートで寄せられた意見(抜粋)

1~3	<ul style="list-style-type: none"> ○以前のくつそろえ調査からしっかりと毎日そろえられるようになった ○出ているくつを全部そろえてくれた ○朝、家族のくつをそろえてくれた
5	<ul style="list-style-type: none"> ○夕方、家族の分すべてをそろえた ○声をかけてから直した ○いわれてすぐそろえた ○毎回注意してやっしまう

3 成果と課題

「規律ある態度」部会の取組として、3つの柱①プレゼンテーションソフト「くつそろえ」の紹介②中学校の取組の様子の紹介③「くつそろえ調査」の実践を進めた。「くつがそろおうと気持ちがいいね」のキャッチフレーズの中には、単にくつをそろえられるようになるという態度面だけでなく、まわりの人たちへの気づかい・心づかいが育つような資料の作成を行った。また、保護者へのアンケートの実施や家庭教育学級等で話題を取り上げたことにより、保護者の関心が一層高まった。これらのことから、学校と家庭が連携した指導の重要性を改めて感じた。

くつそろえの達成の状況は、取組を行ったことにより改善の状況になってきたといえる。今後はこれを継続させていくことが課題となる。また、学校での取組を家庭と連携させることにより、児童生徒が、いつでも、どこでも自ら率先して行動できる態度を育成していく必要がある。

【資料作成の意図】

昨年度の「規律ある態度」達成目標アンケートでは、「くつそろえ」について本市の児童生徒のおよそ8割が「できる」と回答していた。しかし、保護者対象のアンケートで「している」と回答したのは、およそ4割にとどまり、児童生徒と保護者の意識の差が大きい現状である。このことから学校と家庭が連携した指導を必要があると考え、今年度は以下の資料を作成した。資料作成にあたっては、「くつそろえ」ができるようにさせるとともに、くつをそろえることの意義にも触れ、まわりの人に対する心づかいも育てられるよう配慮した。

くつがそろうと気持ちがいいね

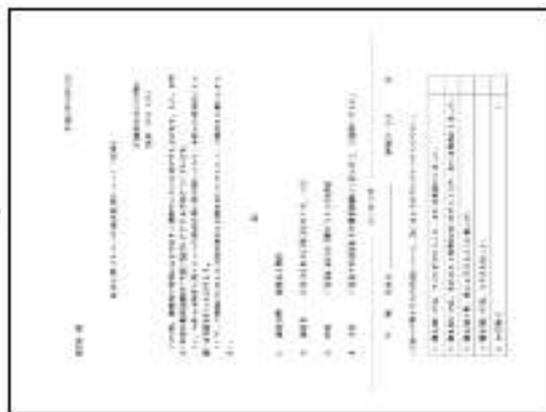
**全校児童・生徒に
紹介したい！**
プレゼンテーションソフト
「くつそろえ」を
ご活用ください



**他校での取組を
知りたい！**
「中学校の取組の様子」



**全校・学年で
調査したい！**
ワードファイル
「くつそろえ調査」を
ご覧ください



資料1 資料作成の意図

*別紙「プレゼンテーションソフトの活用方法」に活用場面、留意点、内容の紹介があります。

プレゼンテーションソフトの活用 教育に関する3つの達成目標「くつそろえ」の実践

学校のくつばこの様子などをプレゼンテーションソフトで提示し、「くつそろえ」を意識させます。家庭でも意識できるように「くつそろえ表」を併用すると効果的です。長期休業前の全校集会等に活用する例を紹介します。

1 資料について

「くつそろえ」について、児童生徒に学校での様子を意識させるとともに、家庭での実践も促す必要性があります。そこで、本資料作成にあたり次の点に留意しました。

- ・ くつばこの様子は、よい例を主に紹介しました。
- ・ 心の成長を期待し、「くつをそろえる」ことの意義や価値にもふれる内容を加えました。
- ・ くつばこの様子の他に、特別教室等を使うときのくつそろえの様子、昇降口の傘立ての様子など「自分勝手ではなく、まわりの人に気を配ってそろえる」場面も加えました。
- ・ 家庭での実践を意識づけるため、保護者の意見を加えました。

2 活用場面

5分間程度で指導できるように作成していますので、冬季休業前の全校集会時等に活用できます。

3 活用の留意点

- ◆ 写真のデータは、自校のものに置き換えてください。
- ◆ 学校の実態や教師の願い・思いを満載して作成してください。

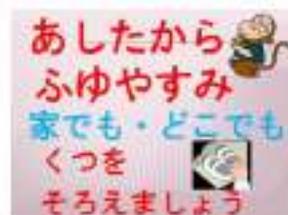
4 内容の紹介（抜粋）



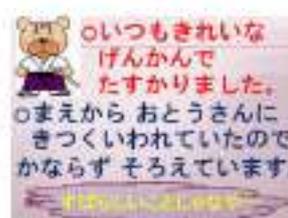
■こんな画面でスタートします



■くつばこの様子を学年ごとに紹介しました



■家庭での取組を促す言葉を加えました



■保護者の意見を紹介しました

資料2 学校配布用プレゼンテーションソフトを活用した実践

【体力部会】

1 研究の概要

新体力テストの結果を見ると、埼玉県体力標準値と比較して本市はボール投げや握力が低い傾向にある。そこで、今年度、本部会では握力について重点に取り上げ、授業内での実践や生活化を図り、児童生徒が進んで握力に関心をもち、楽しみながら取り組んでいけるような実践例を示しました。

2 研究の内容

(1) 小学校A校の握力向上の取組

① 目的

物を握ったり、つかんだり、保持したりすることは日常生活の中で誰もが経験することであり、握力は運動場面の中でも必要不可欠な力である。しかし、体育の授業などにおいて握力を直接的に高めることを意図的に行うことは少ない。そこで、日々の生活の中で、握力を楽しみながら高めていくことをねらいとした取組を行う。

② 内容

○朝の会での取組

・玉入れの紅白玉を使い、歌に合わせて30回握る。朝の会に位置付け、歌に合わせてリズムカルに行うことで、楽しく継続することができた。



○休み時間での取組

・握力アップコーナー設置して、休み時間に自由に取り組めるようにした。また、いろいろなグッズを用意することで、楽しみながら取り組めるようにした。



動物ボール



とげとげボール



握力アップコマ



紙粘土



めいぐるみ



握力グリップ



スポンジ



輪ゴム



板

③ 成果と課題

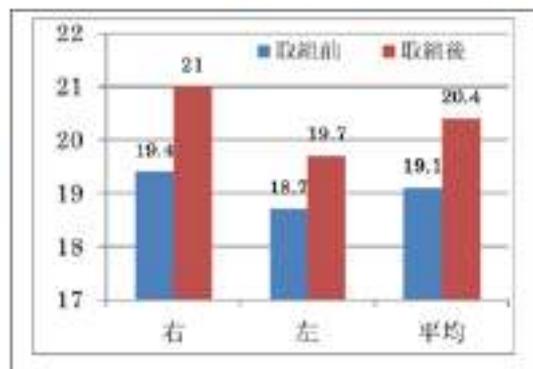
ア 成果

毎朝継続して行うことで、約1ヶ月の取組であったが7割の児童の記録に向上が見られた。伸びた児童の握力は、平均で右が1.6kg、左が1.0kg、左右で

1. 3 kgとなった。また、握力アップコーナーに楽しんで取り組み、自主的に握力を高める児童が増えた。

イ 課題

朝の会での取組は全員が必ず行うが、休み時間の取組については、意欲的に取り組む児童とそうではない児童がいる。全員が日頃から進んで取り組めるようにしていくことが、全体の握力の向上には必要である。



(2) 小学校B校の握力向上の取組

① 握力アップ運動

ア 目的

週に2～3時間の体育授業の中で、短時間で継続的に取り組むことができる運動を行い、握力向上を目指す。

イ 内容

まず、準備運動終了後、両腕を体の前に伸ばし、手の平を閉じたり開いたりする運動を50回×2セット実施した。児童が互いに向き合い、回数を数えながら行うことで、苦しくても最後までやり抜こうとする姿が見られた。決められた回数を早く終わらせるのではなく、1回1回、手を強く握りしめることを意識させた。次に登り棒を用いての逆上がりや、体を左右に振りながら登り棒を登る運動を行った。また、整理運動終了後に親指肩もみを行った。

② 握力オリンピック

ア 目的

学級内で握力が高い児童や、新体力テスト時の記録と比べて記録の伸びが大きい児童の氏名を掲示することで、児童の意欲向上を図った。

イ 内容

教室に握力コーナーを設置し、握力計を常置した。児童は休み時間などに、繰り返し握力を測定し、記録が伸びると喜んで報告をしに来た。握力が高い児童の氏名と記録や、6月に実施した新体力テストの記録と比べて、記録の伸びが大きい児童の氏名と記録を掲示した。また、いろいろなスポーツ選手の握力の数値を掲示することで、児童の意欲喚起を図った。



③ 成果と課題

ア 成果

9月から10月上旬までの約1ヶ月の間、取り組んだが、学級の児童34名中21名の児童が新体力テストの記録を上回ることができた。特に、男子児童は17名中14名が記録を伸ばすことができた。男女にかかわらず、記録を向上させることができた児童の多くが、休み時間に握力コーナーで頻繁に握力を計測して

いた児童であった。

新体力テストの記録が17kg以下だった児童8名(男子5名、女子3名)については、6名の児童(男子4名、女子2名)が平均で約1.7kg記録を伸ばすことができた。また、新体力テストの記録が高かった男女各3名については、平均で約1.2kg記録を伸ばすことができた。

イ 課題

1週間に2～3回の体育授業での取組であったこともあり、記録が伸びなかった児童もいた。今後も継続して取り組むとともに、生活の中で握力向上を図る取組を並行して行う必要がある。

(3) 中学校A校の握力向上の取組

① 目的

2ヶ月間継続した取組を実施し、握力向上に努める。

② 内容

朝の50回トレーニング

毎朝、握力トレーニング器具を左右50回握らせる。1人に1台握力トレーニング器具を用意し、休み時間・帰りの会等にも握らせる努力をさせ、2ヶ月間取り組んだ。

③ 成果と課題

左右握力の平均記録(単位 kg)

	4月	9/5	9/19	10/5	10/18	11/5
男子	24	25	24	24	27	30
女子	20	21	22	22	23	23

記録の伸びの平均

- 上位5人 男子 6.6kg 女子 1.8kg
- 下位5人 男子 4.6kg 女子 3.6kg
- 運動部 3.6kg
- 文化部 2.2kg

ア 成果

- ・男子で平均6.6kg、女子で平均4.0kgの伸びがみられた。
- ・男子は1日を通して握力トレーニング器具を常時握っている生徒が多かった為、記録の伸びが顕著であった。中学2年生男子の全国平均とほぼ同じ数値になった。女子は、男子に比べて取組が消極的に思われたが、男子同様中学2年生女子の全国平均とほぼ同じ数値になった。

イ 課題

- ・取り組み期間が2ヶ月間とやや短かった。計画的に実施していく。

小学校外国語活動研究委員会

I 研究の概要

1 目的

外国語活動の教材が「英語ノート」から「Hi, friends!」に変わったことを受け、教材を生かした授業の充実・推進を図るため、「Hi, friends!」の指導案例を作成し、活用を図ることで授業の工夫改善の一助とする。

2 研究の経緯

川越市では、平成21年度の移行期から、第5・6学年で週1時間英語活動を実施してきた。平成20年度には本委員会を立ち上げ、「英語ノート（試作版）」に準拠した年間指導計画と1単位時間の指導案を作成し、当初の英語活動の円滑な導入を図った。

平成21年度は、試作版の検討を重ね、「『英語ノート』を活用した外国語（英語）活動年間指導計画及び1単位時間の指導案綴り1・2」を作成し、各小・中学校に配布し、授業に活用できるようにした。

平成22年度は、次年度から全面実施となる外国語（英語）活動を踏まえ、その評価について検討し、評価の観点と評価規準を作成した。各小学校に配布し、活用を図った。また、平成23年度に過去2年間の移行期間に外国語（英語）活動に取り組んだ児童・生徒を対象とした意識調査を実施するために、調査内容を検討し予備調査を行った。予備調査では調査対象となった母集団が小さかったが、外国語（英語）活動や英語科授業に対する児童生徒の大まかな特徴を捉えることができた。

平成23年度は、調査対象を拡大し、結果を細かく分析し、外国語（英語）活動の成果と課題や中学校英語科授業との連携について研究を行った。

平成24年度は、外国語活動の教材が「英語ノート」から「Hi, friends!」に変わったことを受け、指導案例及び小・中連携のための活動例を提示した。

II 研究の取組

1 本年度の研究内容

平成25年度は、外国語活動の充実・推進を図るため外国語活動教材「Hi, friends!」の指導案例を提示する。また、英語指導助手とのティームティーチングを充実させるため、昨年度作成した指導案を英語に直したものも作成した。（詳細は「小学校外国語活動研究委員会研究冊子」に掲載）

2 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成25年8月27日（火）	川越市立教育センター	○委嘱書交付 ○趣旨説明 ○研究の方向性の決定
10月15日（火）	川越市立教育センター	○研究部の決定 ○部会ごとの協議
11月26日（火）	川越市立教育センター	○部会ごとの協議
平成26年1月14日（火）	川越市立教育センター	○部会ごとの協議
2月19日（水）	川越市立教育センター	○原稿の最終確認

第5学年外国語活動指導案

<45分>

- 1 教材名 Lesson 3 How many? ①
 2 目標 英語での物の数え方の特色を知り、1～10の数の言い方に慣れ親しむ。
 3 評価 外国語と日本語とは数え方が違うことに気付いている。【言語や文化に関する気付き】
 4 準備 教師用絵カード(数字、じゃんけん、国旗)、Hi, friends! CD またはデジタル教材
 5 展開 (※使用表現: How many? / one ~ ten.)

時間	活動内容	担任 (HRT)	AET	教材教具	
3分	1 英語で挨拶をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体調にあわせた答えができるようにさせる。 <p>A: Hello, how are you? S: I'm good/ happy/ hungry/ sleepy.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全体及び個別に挨拶をする。 	教師用 絵カード (表情)	
5分	2 英語の歌を歌おう ♪Ten Steps♪	<ul style="list-style-type: none"> 1～10数字のカードを指し示しながら、楽しく大きな声で歌えるようにさせる。 <p>One, two, three, four, five, six, seven. One, two, three, four, five, six, seven. Eight, nine, ten. Eight, nine, ten. One, two, three, four, five, six, seven.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童とともに楽しく歌う。 	CD 教師用 絵カード (数字)	
10分	3 じゃんけんをして、勝った数をかぞえよう 【Let's Play①】	<ul style="list-style-type: none"> じゃんけん絵カードを紹介し、英語で発音する。 HRTとAETがじゃんけんをするモデルを見せる。 <p>Rock, scissors, paper, one, two, three.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 勝った回数をHow many?と尋ね、英語で1～10を順に言いながら、勝った回数のところ児童に挙手させるようにする。 	教師用 絵カード (じゃんけん) Hi, friends! p.10	
8分	4 聞いてどの国の数の言い方が考えよう 【Let's Listen】	<ul style="list-style-type: none"> CDを聞き、どの国の数え方を予想し発表する 	<ul style="list-style-type: none"> CDを聞かせ、どの国の数え方を予想して発表させる。 ①英語 ②フランス語 ③日本語 ④スペイン語 ⑤韓国語 ⑥中国語 	<ul style="list-style-type: none"> CDの後、ゆっくり繰り返す。 	Hi, friends! p.10 CD 教師用 絵カード (国旗)
10分	5 キーナパーゲーム①をしよう	<ul style="list-style-type: none"> やり方をデモンストレーションで示す。 <p>①ペアになって向かい合い、2人の間に消しゴム (又は帽子) を置く。 ②指導者はキーナンバーを1つ選び、その数カードを黒板に貼る。 ③指導者が単語を言った後、2回足をたたきながら、繰り返す。 例) seven (指導者) seven (児童) five (指導者) five (児童) ④キーナンバーが言われたら、繰り返さずに消しゴム (又は帽子) を取る。 ⑤キーナンバーを替えてゲームを繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 慣れてきたら、消しゴムを取った児童が相手にその数が好きかどうかを尋ねることを入れるとよい。 例) Do you like seven? Yes, I do. / No, I don't. 	教師用 絵カード (数字) 消しゴム (又は帽子)	
5分	6 チャンツをしよう 【Let's Chant】 ♪How many balls?♪	<ul style="list-style-type: none"> Hi, friends! p.12の絵の中のdogsやcats, ballsを数えながら、聞かせたり、歌わせたりする。 <p>A : Dogs, dogs, how many dogs? B : One, two, three, four, five dogs. A : Cats, cats, how many cats? B : One, two, three, four, five cats. A : Balls, balls, how many balls? B : One, two, three, four, five balls. Six, seven, eight, nine, ten balls.</p>	<ul style="list-style-type: none"> チャンツに合わせてdogsやcats, ballsを数えながら一緒に歌う。 	Hi, friends! p.12 CDまたは デジタル 教材	
4分	7 振り返りと挨拶をしよう	<p>Thank you very much, ~sensei. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の感想を聞く。 大きな声で挨拶ができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体に挨拶をする。 	振り返り カード

第6学年外国語活動指導案

- 1 教材名 Lesson 1 Do you have "a"? ① <45分>
 2 目標 31～100までの数の言い方を知り、繰り返し練習して慣れ親しむ。
 3 評価 31～100までの数の言い方を知り、聞いたり言ったりしている。【言語や文化に関する気付き】
 4 準備 教師用絵カード(1～100までの数字、Hi, friends!大型掲示)、Hi, friends!CDまたはデジタル教材
 5 展開 (※使用表現: one～one-hundred)

時間	活動内容	担任 (HRT)	AET	教材教具
3分	1 英語で挨拶をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体調にあわせた答えができるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体及び個別に挨拶をする。 	教師用絵カード(表情)
A: Hello, how are you? S: I'm fine/ happy/ hungry/ sleepy.				
7分	2 動物などの数を数えよう① 【Let's Play】 <ul style="list-style-type: none"> 動物などの名前を言ったり、数を数えたりする。(bear, panda, giraffe、おとな、子ども、など。) 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生で学習した数を思い出させる。(1～20) 最初は、児童が数えられる少ない数の物を数えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物などの言い方を発音する。 	Hi, friends! p.2, 3 CDまたはデジタル教材
8分	3 1～100まで言ってみよう <ul style="list-style-type: none"> 31以上の数の言い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> thirteen と thirty、fourteen と forty などの発音の違いに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1～100までの数をくり返し発音する。 	1～100 までを書いた紙
10分	4 動物などの数を数えよう② 【Let's Listen】 <ul style="list-style-type: none"> 動物などの数を、班で数えて、メモする。 班で、順番に発表していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 班で考えさせ、苦手な児童も答えられるようにする。 動物などの名前を書いた一覧表を渡してもよい。 デジタル教材で答え合わせができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 班を回り、アドバイスする。 	Hi, friends! p.2, 3 CDまたはデジタル教材
10分	5 カウンティングゲームをしよう <ul style="list-style-type: none"> 教室のはじから、一人ずつ100まで数を言っていく。(最後までいったら、戻って続ける。) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒に数を数える。 言えない児童にアドバイスをしたり、言えた児童をほめたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言えない児童にアドバイスをしたり、言えた児童をほめたりする。 	
【応用のゲーム】1、2号車と3、4号車の2チーム対抗で行う。 例1：席の両端から数字を言い始めて、早く100まで言い終わったチームが勝ち。 例2：席の両端から数字を言い始める。3の倍数は数を言わないで、手をたたく。早く100まで言い終わった方が勝ち。				
3分	6 チャンツをしよう 【Let's Chant】 <ul style="list-style-type: none"> CDを聞き次に一緒に歌う♪ How many penguins? ♪ 	<ul style="list-style-type: none"> CDを聞かせたり、歌わせたりする。 ゆっくりバージョンやカラオケを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に歌詞を教える。 一緒に歌う。 	Hi, friends! p.3 CDまたはデジタル教材
さくら：Penguins, penguins, how many penguins? Twenty, twenty-one, twenty-two, twenty-three penguins. たく：Monkeys, monkeys, how many monkeys? Twenty, thirty, forty, forty-one, forty-two, forty-three, forty-four, forty-five, forty-six, forty-seven monkeys.				
4分	7 振り返りと挨拶をしよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> Thank you very much, ~ sensei. See you. </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の感想を聞く。 大きな声で挨拶ができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体に挨拶をする。 	振り返りカード

"Hi, friends! 1" English Activity Teaching Plan

<45分>

- 1 Topic: Lesson 4 I like apples.②
- 2 Goal: Get accustomed to the expressions of likes and dislikes.
- 3 Evaluate: Can use and listen to their likes or dislikes things.
- 4 Materials: Picture cards, CD(English song), Hi, friends! CD or digital materials
- 5 Procedure: (※Expressions: I like ~. / Do you like ~? / Yes, I do. No, I don't.)

Time	Activities	HRT(Homeroom Teacher)	AET	Notes
3 min	1 Let's greet in English	•Let students express according to their feelings.	•Greet the students as a class and individually.	
		A: Hello, how are you? S: I'm fine / happy / hungry / sleepy.		
5 min	2 Let's Chant ♪I like apples.♪	•Play the CD, and say the words with saying the picture cards. •Play chants.		CD Picture cards
5 min	3 Let's Play Keyword Game	•Tell the students to use "I like ~." and "I don't like ~."	•Let students decide the keyword •Say "I like ~." and "I don't like ~."	Picture cards
10 min	4 Let's Play Game	Demonstrate how to play.		Picture cards
		①Put the picture cars for teacher's on the blackboard and get into two teams. ②HRT explains how to play the game and give instructions to students. ③The first student points cards in order by the teacher's signal and say things like, "I like dogs. I like oranges,"etc. Student goes to opponent's position. ④When the first students of each team meet, they do <i>janken</i> . The winner goes forward to opponent's position. The loser changes to next student. ⑤Repeat③and④ and the team that gets to the last card of their opponent win the game.		
10 min	5 Concentrate Game	•Demonstrate how to play.		Picture cards p.41, p.43
		① Tell students to play the Concentrate Game. Let students get out their picture cards. ② AET says "I like ~,~and ~. (Use 3 words) ③ Students line the words in order after listening. ④ When the students get used to it, AET changes the expressions. For example, "I like ~. I don't like ~and~." *Increase the words if the students were OK. *Depending on the class, do it as a group or a pair.		
8 min	6 Let's listen what they like. 【Let's Listen ①】	•Ask students whether they like the things on p.16. •Tell students to connect the line on p.16.	•Ask students "Do you like dogs?" or "Do you like milk?" •Check the answers. Repeat the word or sentence if it was unclear.	Hi, friends! p.16 CD or digital materials
4 min	7 Review and greet	•Students write how today's lesson was. And ask 2~3 students. •Tell them to greet at loud.	•Greet with the students.	Funkaeri Card

"Hi, friends! 2" English Activity Teaching Plan

- 1 Topic: Lesson 8 What do you want to be? ④ <45分>
 2 Goal: Become aware that there are many children who have various dreams and be able to express what you want to be in the future.
 3 Evaluation: Students are able to express what they want to be in the future to other students.
 4 Materials: picture cards(occupations), "Hi, friends CD or digital materials,
 5 Procedure: (※Expression: I like ~. I want to be ~. / What do you want to be?)

時間	Activities	(HRT) homeroom teacher	AET	notes
3 min	1 Let's greet in English.	・Have the students greet according to how they're feeling. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> A: Hello, how are you? S: I'm fine. / happy. etc... A: What day is it? S: It's (Monday.) A: What's the date today? S: It's (November first.) A: How's the weather today? S: It's (sunny.) </div>	・Greet the students.	
5 min	2 Let's chant.	・AET asks students, "What do you want to be?" and students answer. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ♪ What do you want to be ♪ What? What? What do you want to be? A (singer). A (singer). I want to be a (singer). I want to be a (singer). Good luck. </div>		Picture cards or CD or digital materials
5 min	3 Let's listen to 3 characters' dreams.	・Have the students prepare for the activity, "let's declare your dream." <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・Have the students listen to the recorded material and write down the information about 3 characters' (Sakura, Taku, Alexi) dreams. </div>		Hi, friends! p.40 / Picture cards CD or Digital materials Work sheet
10 min	4 Let's prepare for your declaration of your dream.	・help students choose what they want to be and give them hints. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・ex A: speaker B: students in a group B : What do you want to be? (ask A all together) A : I like sports. I like soccer. (hint or reason) B : You want to be a soccer player. or A soccer player. (students guess the answer) A : That's right. I want to be a soccer player. (answer) </div>		Picture cards (buildings)
17 min	5 Let's declare your dream. [Activity]	・help students walking around groups. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・Students make a small group and declare their dream one by one. ① One of the students declares his or her dream. ② Others listen to his or her hints and write down his or her dream on a work sheet. ③ The student who is right gets points. ・the student who is best in the group makes their declaration in the class. </div>	・Walk around the classroom and help students. ・Walk around the classroom and help students.	Work sheet
5 min	6 Closing and greeting	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Thank you very much, ~ sensei. See you. </div>	・Have the students open the back page of the back cover of Book2. ・Let the students think about the message: "You've learned a lot of things in this class. What would you like to do using English in the future? At the end, the leader opens the cover of the textbook and shows it to the students, and lets them recognize their achievement.	Back cover of Hi, friends!

